

平成26年度

みんなのPTA

福井県PTA指導者研修会報告書

福井県生涯学習センター

目 次

福井県幼・小・中 P T A活動研修会

	ページ
【坂井地区】	
「人とのつながり地域とのつながりを大切に！」…………… 坂井市立明章小学校P T A	1
「家庭と学校が連携を深めるP T A活動」…………… あわら市金津中学校P T A	5
【福井・永平寺地区】	
「子どもの心と笑顔、育み隊 ～楽しみながら取り組むP T A活動～」… 福井エンゼル幼稚園父母の会	13
「親子でふれあう、地域とふれあう ～集団が集団を育てるP T A活動をめざして～」 …………… 福井市長橋幼・小学校P T A	19
「ふるさとへの愛着を育てるP T A活動」…………… 福井市美山中学校P T A	24
【奥越地区】	
「平泉寺小学校の活動報告とP T Aや地区との関わり」…………… 勝山市立平泉寺小学校P T A	29
「地域と共に育てよう 心豊かな生徒たち ～地域との連携・参加活動を通じて～」 …………… 大野市尚徳中学校P T A	33
【嶺南地区】	
「敦賀スタンダードに基づくP T A活動 ～地域を愛する子どもたちを育てるために～」 …………… 敦賀市立松原小学校父母師会	39
「敦賀市立松陵中学P T A活動報告」…………… 敦賀市立松陵中学校P T A	44
【丹南地区】	
「すべての地域住民と子どもたちの絆をつなぐ活動 ～少子化・高齢化・人口減少を前向きにとらえる～」 …………… 鯖江市河和田小学校P T A	49
「ボランティア活動の継続とさらなる展開 ～やりがいを実感できる活動への展開～」 …………… 越前市武生第三中学校P T A	55

福井県高等学校P T A指導者研修会

【嶺北地区】	
「豊かな心を育む生徒指導をめざして ～アットホーム、どうせするなら楽しく、なかよく～」 …………… 福井県立丸岡高等学校P T A	63
「家庭教育とP T A ～“たくみそば”から家庭の絆を～」…………… 福井県立武生工業高等学校P T A	69
【嶺南地区】	
「本校のP T A活動について ～家庭と学校が両輪となった活動を目指して～」 …………… 福井県立敦賀工業高等学校P T A	75

平成26年度 福井県幼・小・中PTA活動地区別研修会 実施状況一覧

地区・期日・会場	講演・研修内容	実践発表校
<p>【 坂井地区 】 6月14日（土） あわら市金津中学校</p>	<p>講演 『わかりやすい子育て ～コモンセンス・ペアレンティング～』</p> <p>講師 コモンセンス・ペアレンティング プログラム・マネージャー 森谷 道行 氏</p>	<p>坂井市立 明章小学校PTA</p> <p>あわら市 金津中学校PTA</p>
<p>【 福井・永平寺地区 】 6月21日（土） 福井県生活学習館</p>	<p>講演 『親も子も知っておこう 性の知識』</p> <p>講師 福井愛育病院 副院長 鈴木 秀文 氏</p>	<p>福井エンゼル幼稚園父母の会</p> <p>福井市 長橋幼・小学校PTA</p> <p>美山中学校PTA</p>
<p>【 奥越地区 】 6月22日（日） 学びの里「めいりん」</p>	<p>講演 『子どもの心を育て、心をつなぐために ～大人ができること～』</p> <p>講師 福井心のクリニック 臨床心理士 齊藤 荘二 氏</p>	<p>勝山市立 平泉寺小学校PTA</p> <p>大野市 尚徳中学校PTA</p>
<p>【 嶺南地区 】 6月28日（土） きらめきみなと館</p>	<p>講演 『インターネットの安心安全な使い方 ～子どもたちをネット社会の被害者にも 加害者にもしないために～』</p> <p>講師 e-ネットキャラバン講師 後藤 亜希子 氏</p>	<p>敦賀市立 松原小学校父母師会</p> <p>松陵中学校PTA</p>
<p>【 丹南地区 】 6月29日（日） 鯖江市文化センター</p>	<p>講演 『平成時代の父性を考える』</p> <p>講師 NPO法人子育てサポートセンター きらきらクラブ 副理事長 林 昇平 氏</p>	<p>鯖江市 河和田小学校PTA</p> <p>越前市 武生第三中学校PTA</p>



福井県幼・小・中P T A活動研修会

坂井地区

平成26年6月14日(土)

あわら市金津中学校

人とのつながり地域とのつながりを大切に！

坂井市立明章小学校 P T A

はじめに

本校は、開校23年目の新しい小学校である。前身の分校が廃校になるという危機を住民の熱い思いで乗り越えて建てられたという経緯がある。校名の『明章』は、明治13年から同32年まで、当該地区に設立されていた小学校の名称で、地元民の賛同を得て決定した。出典は古来儒学の基本を成している中国の四書五経の中の「礼記」からである。外国のお城を思わせるような児童玄関、明章校区を一望できる展望台、みんなで楽しく給食の出来るランチルームがあり、現在、児童数138名、PTA会員数101名、教職員数16名のアットホームな学校である。

1 本校のPTAの組織

役員：会長1名、副会長2名、総務2名、会計1名、監事2名
執行委員：補導委員4名、学級委員2名、母親委員2名、広報委員2名
体育文化委員2名

2 PTA活動

(1) 補導委員会

- ① 春秋資源回収
- ② 運動会の協力（5月）
- ③ 街頭交通安全指導（4月～3月）

(2) 学級委員会

- ① 親子教室（11月）

(3) 母親委員会

- ① ベルマークの回収、集計
- ② 校庭の畑の草取り

(4) 広報委員会

- ① PTAだよりの発行（年2回）
- ② 運動会の協力（5月：写真撮影）

(5) 体育文化委員会

- ① 運動会の準備、協力（5月）

(6) その他活動

たかとり祭りの参加、スキー教室の協力、6年生の集いの協力

3 主な活動内容

(1) 資源回収

補導委員会が中心となり、毎年春秋に学校区内の資源回収を行っている。リサイクル資源を子どもたちが保護者と一緒に回収することで、勤労の大切さを知り、また地域の人とのつながりを大切にする活動である。



(2) 運動会

毎年5月に開催される運動会は子どもと家族・地域をつなぐ大きな行事で、PTAの体育委員が中心となり学校と協力しながら親子競技の計画や準備などを行っている。前週には体育文化委員の他、全PTA会員による校庭の草刈を行っている。



(3) たかとり祭り

毎年8月に地域で開催されている地域の祭りに参加し、模擬店を出店している。昨年は揚げだこ、フライドポテト、かき氷等を販売して地域の方々から好評であった。子どもから大人まで楽しんでもらうことが目的である。



(4) 親子教室



毎年11月には学級委員が中心となって親子のふれあいを深める活動を行っている。写真は、講師を招いて親子体操を楽しんだ様子である。日頃ありそうであまりない親子の肌と肌の触れあいを感じた一時であった。

(5) 街頭交通安全指導

毎年4月から3月までの期間、各地区で補導委員が中心となって児童の登校中の安全を見守る活動を行っている。徒歩通学区域では一緒に学校まで登校し、スクールバス区域ではバス停まで付き添っている。子どもはもとより親も安心して学校への登下校ができています。

(6) PTAだより発行

年2回広報委員会がPTAだよりを発行している。学級委員会が行った親子教室のア

ンケート結果や学校行事などの記事を掲載している。各家庭に配布する他、地区の回覧板を通して地域の方々にも学校での活動を紹介している。

(7) その他

明章小学校は開校23年目を迎えている。一度廃校になったが、多くの人々の「自分たちの地域に学校を」という熱い思いで明章小学校は再建された。22年間たくさんの卒業生たちがすばらしい伝統を築いてきている。この流れを受け「自分たちも、たくさんの方々への感謝の気持ちを忘れず、すばらしい伝統を築いていこう」という気運が高まり、そして、「そんな思いを歌にして、学校生活の中で歌い継ぎ、その思いを大切にしていきたい」という話が持ち上がったのである。

作詞・作曲を手がけた「一途」のみなさんは、全校児童や保護者、そして地域の人々にインタビューをするとともに、地域を実際に歩いて地域の良さをその目でも確かめ、みんなの思いを歌にしてくれたのである。

今年2月の「6年生とのつどい」で再び「一途」を迎え、明章小学校の応援歌である「はばたけ明章小学校」を披露していただき、児童及びPTA役員と共に合唱した。この様子は新聞記事に掲載された。



福井 2014年(平成26年)3月1日(土曜日) ふくい地域 4

お告げのあった時刻に孫谷山へ行つた。(杉原丈夫編「越前若狭の伝説」より)

ふくい地域

未来へつなぐ応援歌

坂井市丸岡町福徳のした二年前の演奏会が明章小学校の依頼で鯖江で、学校側が応援歌の三兄妹バンド「一途」の制作を依頼。アンケッが制作した同校の応援歌に盛り込みたい。援歌「ぼくたちの翼」は、場所や地域の自然などばたけ明章小学校」が完を調べ、一途の青木美成し、校内で二十八日に、智子さん心が作詞し開かれた卒業生を祝うた。「六年生のつどい」で、全校児童四十七人と披露された。歌詞には同校自らの「展望台」など、この披露には、一途のが盛り込まれ、児童たち、鈴木幸さん息と注の心に響く一曲となった。れ、応援歌を歌い上げた。創立二十周年を記念た。地域の自然と歴史、

ぼくたちの翼〜はばたけ 明章小学校〜
展望台に ワークスペース
みんな 大好き この場所
元気に あいさつ 明るい笑顔
未来に つながる 伝統つくる
はばたけ はばたけ 明章小学校

ぼくたちには 強い翼がある
右は みんなの愛情
(家族、先生、街の人)
左には 感謝の気持ち
(ありがとう 守ってくれて)
夢に向かって 飛び立とう

※1番のみ

鯖江のバンド「一途」制作 丸岡の明章小で披露

ぼくたちの翼〜はばたけ 明章小学校〜
で考えた振り付けで、え、歌の完成を二種に喜んだ。
六年生の山野明徳さん
(三)は「はばたけはぼくたちの翼」の歌詞が好き。す
調とスローテンポのサ、と歌い継いでいては
ワンが心に染み入る曲、しいと話していた。
で、児童たちも月たち
(坂井雄の

ぼくたちの翼〜はばたけ明章小学校〜

一展望台に ワークスペース
みんな 大好き この場所
元気な あいさつ 明るい笑顔
未来に つながる
伝統 つくろう

はばたけ はばたけ 明章小学校

ぼくたちには 強い 翼がある
右は みんなの愛情
(家族、先生、町の人)
左には 感謝の気持ち
(ありがとう 守ってくれて)
夢に向かって 飛び立とう

二あふれる 緑 可憐な 草花
自然 いっぱい この場所
仲間を 信じて 励ましあって
未来に つながる
絆を つくろう

はばたけ はばたけ 明章小学校

私たちには 知恵の 翼がある
右は 誇れる 歴史
(学び 受け継ぐ 助け合い)
左には 新しい 希望
(志 胸に 抱いて)

豊かな ふるさと いつまでも

ぼくたちには 強い 翼がある
右は みんなの愛情
(家族、先生、町の人)
左には 感謝の気持ち
(ありがとう 守ってくれて)
夢に向かって 飛び立とう

4 今後の課題

通学路の安全確保に果たす地域の取り組みについて



街頭指導を行っているが、昨年度は帰宅後の時間帯に交通事故があった。PTAとしては、これまで「飛び出し注意」や「飛び出し坊や」の看板を制作し危険箇所を設置してきたが、まだ取り組みが不十分なのかもしれない。地域の方との連携を強化して子どもたちの安全を図っていく新たな取り組みを模索中である。たとえば、警察に働きかけて危険区間の制限速度を下げたり、行政に働きかけて歩道を設置したりする等、具体的に動き出すにはどうしたらよいか、そのノウハウを先人の取り組みに学ぶことから始めたい。

5 おわりに

最後に、明章小学校は信頼と和合の中で、心身ともに健康で、優れた知性を養い、自主・協調性にとんだ人間性豊かな児童を育成するといった教育目標があり、これに基づき人とのつながり、地域とのつながりを大切にPTA活動を行っている。この意気込みでこれからのPTA活動に取り組んでいきたい。そして子どもと地域と共に歩むPTAを目指していきたい。

【質疑応答と意見交換】 発表校 坂井市立明章小学校PTA

あわら中学校PTA

質問 地区祭りの模擬店出店に関して、どの様に（人数、期間、予算等）計画していますか。

回答 6月末から町協や執行委員会で打合せ、役員と執行部20人で運営し、8月第一土曜日に実施しています。（予算は、都度なので未回答）

質問 広報誌年3回発刊に対する年2回発刊のメリットとデメリットを教えてください。

回答 昔から年2回発刊だったのでわかりません。

丸岡南中学校PTA

課題 同じ校区であり、通学路の安全確保について、街灯が少なく歩道もない、線しかない為歩くエリアがせまい等、今後どの様にアプローチしていけばよいか困っているので、情報があれば教えてほしい。

鳴鹿小学校PTA

情報 福井市内の小学校で登校時間帯だけ通行禁止や通行速度をきめていた例があったと思うので、出来るかどうか、その学校のPTAや行政に相談したらよいと思います。

家庭と学校が連携を深めるPTA活動

あわら市金津中学校PTA

はじめに

金津中学校のあるあわら市は、福井県の最北端に位置し、石川県と境を接している。平成16年に、金津町・芦原町の合併により、福井県で初の市町村合併で誕生した市である。人口は約30,000人の規模である。旧金津町は、越前の国と隣の加賀の国を結ぶ交通の要所に位置し、古来より北陸道の重要な宿場町として栄えてきた。また、町の中心部を流れる竹田川は、港町三国と城下町丸岡を結ぶ水路であり、陸路・水路ともに、人と物資の輸送の拠点として発達してきた町である。



こうした歴史と伝統が育まれた町で、その伝統を受け継ぎながら、保護者と教師が相互の理解を深め合い、家庭・地域・学校それぞれの場における子どもたちの健やかな成長を願いつつ、地域の実態に応じ、様々なPTA活動を進めていきたいと考えている。

1 金津中学校の概略

本校は、昭和22年の学制改革により発足した6中学校が統廃合され、昭和39年に現在の金津中学校となった。平成9年には創立50周年を迎えた。平成22年度に耐震補強工事が終わり、スクールバスの運行も開始されている。平成26年4月現在、1年生146人（6クラス）、2年生164人（6クラス）、3年生167人（6クラス）の合計477人（18クラス＋特別支援学級2クラス）、会員数439人となっている。



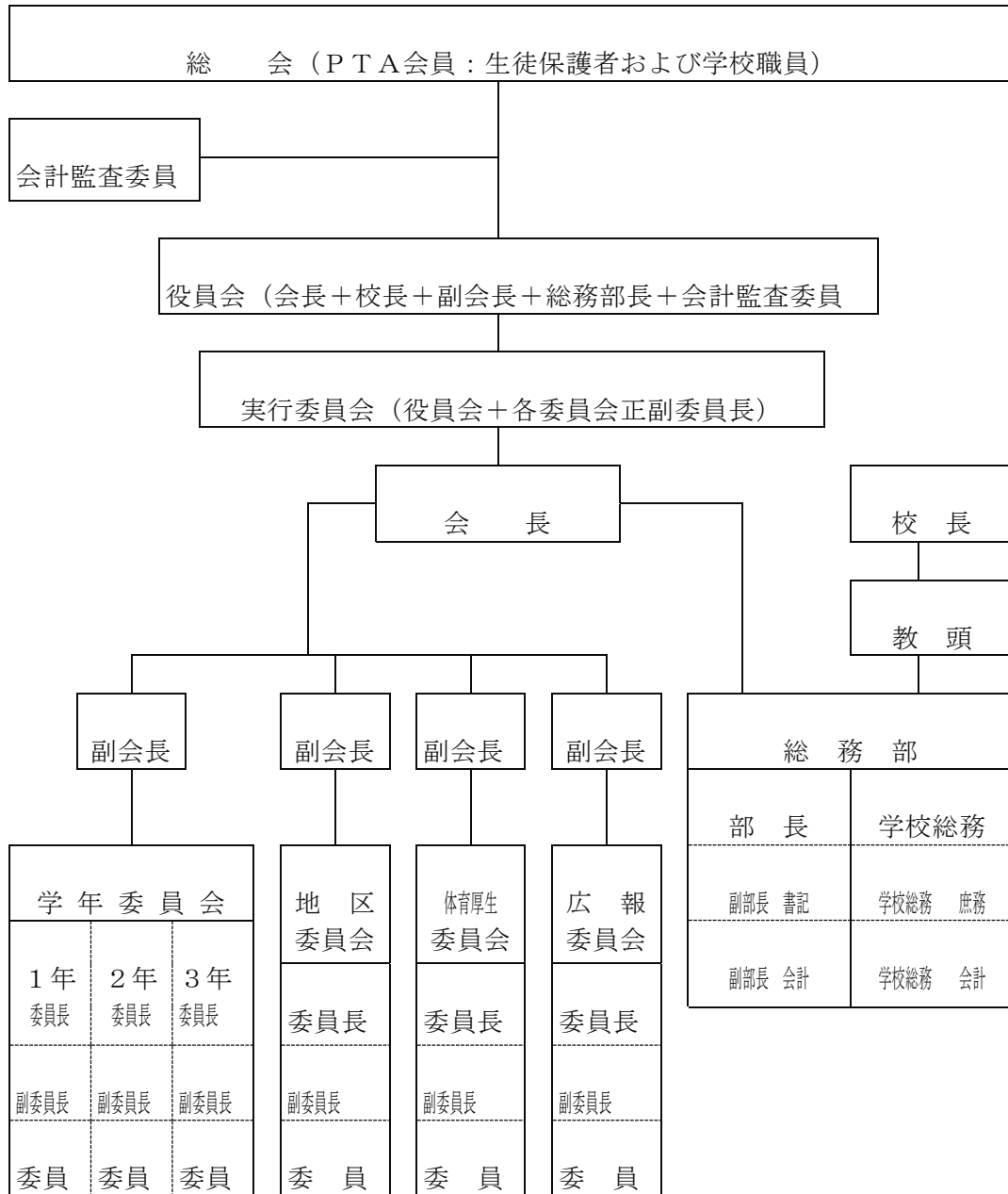
教育目標（校訓）には、

- ・ 明朗な和合（親和、互助、友情）
＝人権を尊重し、相手を思いやる生徒の育成を図る。
- ・ たくましい実力（学力、体力、気力）
＝学力の向上、たくましい体力・気力の育成を図る。
- ・ うるわしい秩序（礼儀、規律、責任）
＝好ましい基本的な生活態度、習慣の育成を図る。

を掲げ、生徒の実態と社会の要求を踏まえ、自立の精神を育むとともに、自他の敬愛と協力を重んじ、明るい学校の創造と個性豊かな生徒の育成に努めており、落ち着いたもの、明るい生徒が育っている。

2 P T Aの組織と運営

(1) 金津中学校P T A組織図



(2) 組織について

- ・ 生徒保護者および学校職員から構成される P T A 会員により組織されており、上図のように、総会を最高議決機関に位置づけ、各学年委員会など 6 つの専門委員会を中心に、草の根の活動を行う。企画・運営機関としては、役員会と実行委員会がある。

(3) 運営について

- ・ 役員会は、各専門委員会の事業計画遂行を応援するため、副会長をそれぞれの委員会の担当とする担当役員制度を設け、身近な相談役となり、役員会とのパイプ役として、委員会の円滑な運営に尽力する。
- ・ 各委員会には教職員も配置され、学校側との調整等を行い、運営に協力する。

3 P T A各委員会の活動

(1) 実践テーマ「家庭と学校が連携を深めるP T A活動」について

本来P T A活動は、保護者と教師が相互の理解を深め合い、家庭・地域・学校それぞれの場における子どもたちの健やかな成長を願いつつ、地域の実態に応じ様々な活動を行うことである。子どもを取り巻く環境の変化によって、教育の課題も山積し、P T Aに課せられた課題も日増しに大きくなってきている。家庭・地域・学校の連携が叫ばれているのもそのためであろう。

本校では、その連携の第一歩は「対話」であるとの認識に立って取り組んでいる。子どもたちの健やかな成長のために、保護者も教師も心の垣根を取り払って「対話」を大切にしようことを基本に取り組んでいるところである。話し合うことによって気づかなかった相手の心に触れることができるものである。同じ悩みを持っていたことを発見できることもあり、そこから親近感が生まれ、信頼が生まれてくるものであると信じている。

また、この「対話」は保護者と教師の間だけのものではなく、保護者と子ども、教師と子どものそれぞれの関係の間にも必要なものであり、対話によって生まれた親近感や信頼感が、互いの距離を縮め、保護者・教師・子どもの三者の関係がより密接になっていくと考えている。

このように、保護者と教師がお互いに「対話」を大切にしながら、一緒になって子どもたちのために考えていける、そんなP T A活動でありたいと願っている。保護者と教師が一層協力し合える開かれた学校、P T A活動を目指して努力していきたいと考えている。

(2) 各委員会の活動について－生きる力を育てる活動へ

本校のP T Aの活動は、P T A主催の活動だけでなく、体育祭・文化祭等の学校行事にも積極的に参加・協力し、子どもたちへの感動と信頼を高め、次への飛躍のステップにしている。また、「対話」を大切にしたいということで、P T A相互の交流を大切にしたい行事等も企画し、会員相互の意思の疎通や保護者としての子どもへの接し方の情報交換、学習の場として大いに役立っている。

委員会名	業 務 内 容	主 な 活 動
学 年	会員及び生徒の教養文化的行事の振興のため、学校行事への協力、研修等企画、運営	学級・学年懇談会 P T A交流会 文化祭への協力
地 区	地区と学校の連絡及びその他の行事への協力	資源回収（年2回） サマーコンサートへの協力 挨拶・交通安全運動
体育厚生	学校施設、環境の充実及び生徒の福祉増進に関する計画の推進、生徒の体育活動の振興並びに会員相互の親睦行事の開催	P T A交流会 資源回収への協力・応援 体育祭への協力
広 報	本会が発行するP T A広報の企画及び編集	広報誌（年3回）の発行

①学年委員会

学年委員会は、1・2・3年の各委員会に分かれているが、主な活動としては、4月の学級懇談会、6月のPTA交流会、9月の文化祭への参加協力や、学年懇談会（時期は学年によって異なる）の開催があげられる。

学年懇談会は、初めは「夜はどうも…」と尻込みしがちであるが、懇談会終了後は、「来て良かった。」「やって良かった。」等の率直な意見をたくさん聞くことができ、普段、学校や教室であまり聞かれない話ができたり、保護者としての悩みが共有できたりと、とても有意義であった。保護者と教師が、場所と時間を変えて、リラックスした雰囲気と考えや意見を出し合う場を持つことは、今後のPTA活動にとっても大きな収穫であろうし、ますます充実が図られるように考えていきたい活動である。

PTA学年懇談会

11月22日(金)

1年

1学年PTA懇談会は、11月22日にいちひめホールで参加者44名にて開催しました。
最初は、中高一貫教育の説明を金津高校より教頭先生にお越しいただき、取り組みや進路についての説明をしていただきました。次に子育て講演会として、NPO法人ババジャングル副理事長の掛受正弘さんに「13才の長男坊から学んだこと」話を聴く力」と題して講演をしていただきました。
13才という思春期の子供との接し方、強固なくアパイスをしたほうが良いとか、家庭では学校と違いルールづくりは少ない方が良いというような体験により感じた思いを教えてくださいました。
天候が悪かった影響が参加者が申込み数よりかなり少なく残念でしたが、充実した講演会であったと感じました。御協力いただきました皆様ありがとうございました。
1学年委員長 岡本 伊佐雄

2年

11月5日、金津中学校いちひめホールにて、坂井高校校長先生、金津高校教頭先生にお越し頂き、学校説明会を行いました。
沢山の父兄の方に参加して頂き、誠にありがとうございました。
金津高校の中高一貫教育制度の説明や、新設される坂井高校の説明などがありました。
特に、クラス編成が変わる坂井高校の説明は興味深く、子ども達の受験に向けて参考になるものでした。
企画して下さいました先生方、お忙しい中参加して下さいました父兄の皆様ありがとうございました。
2学年委員長 石田 雅義

3年

10月25日(金)
第3学年のPTA学年懇談会では、福井大学保健管理センターより細田憲一先生をお招きし、「受験期・思春期の理解と対応」という演題で講演を実施しました。
この学年は、思春期という非常に不安定な時期に到来を大きく左右する高校受験があり、どの家庭も様々な不安や悩みを抱えていると思います。細田先生の講演では、学力を伸ばすためには、本人の心の落ち着きが必要であり、そのためには家族さんや安らぎが大切であること、また、記憶力の向上や心の安定を図るためには、食事の栄養バランスが関係するということなどを、PTA副会長 菅谷 恵美子
PTA活動では、何度も学校に行き子供達の様子を間近で見たり、先生方とお話しする機会を与えて頂きました。文化祭の時に、一人一人にアリスを手渡し、みんな笑顔で嬉しそうに受け取っている様子は、PTA活動の中でも一番印象に残っていることです。活動を通して、沢山の父兄が子供達の為に活動されている事、先生方が、日々子供達の為に色々と考えてご尽力頂いていることを知り、本当に有難く思っております。副会長を引き受けた当初、何をしたいのか全く分からず、何もかも初めての事はかりで不安な沢山ありましたが、一緒に活動させて頂いたPTA役員の皆さんや先生方のおかげで今年度の活動も無事終える事が出来ました。本当にお世話になり有難うございました。
3学年委員長 前川 昌利

PTA活動を振り返って

PTA活動では、何度も学校に行き子供達の様子を間近で見たり、先生方とお話しする機会を与えて頂きました。文化祭の時に、一人一人にアリスを手渡し、みんな笑顔で嬉しそうに受け取っている様子は、PTA活動の中でも一番印象に残っていることです。活動を通して、沢山の父兄が子供達の為に活動されている事、先生方が、日々子供達の為に色々と考えてご尽力頂いていることを知り、本当に有難く思っております。副会長を引き受けた当初、何をしたいのか全く分からず、何もかも初めての事はかりで不安な沢山ありましたが、一緒に活動させて頂いたPTA役員の皆さんや先生方のおかげで今年度の活動も無事終える事が出来ました。本当にお世話になり有難うございました。

②地区委員会

主な活動としては、各地区で子どもたちの健全育成にあたり、6月と10月の年2回実施する資源回収と早朝登校指導（挨拶・交通安全運動）、夏

のサマーコンサートへの協力がある。特に後者は、子どもたちの活動の貴重な財源となる行事である。地区委員は、学校と地域社会を結ぶパイプ役として幅広く活動している。

資源回収は、各地区の地区委員を中心に、地域の方や保護者、生徒、教師がともに汗を流し、力を合わせる事の大切さを学ぶことができる。また、資源の有限性、環境を見直す機会としても大切にとらえている。このような考え方のもと、本活動はPTAと学校に加え、生徒たちの活動の主体である生徒会も加えた、三者による共催の活動としている。


サマーコンサートは今年度で49回を重ね、長年子どもたちの活動を支えてきた金津中学校の誇りとなり、文化の薫り高い町づくりの一端を担っている。

資源回収

●新聞 71,020kg	●段ボール 21,350kg
●雑誌 70,960kg	●アルミ缶等 1,240kg

6月9日に、第1回資源回収が実施され、多くの市民の皆様、PTAの皆様、生徒の皆さん、学校の先生の御協力のもと、また天候にも恵まれ、多くの資源が回収されました。大きな事故等もなく、終了できました。誠にありがとうございました。

PTA地区委員長 和田 剛



後期資源回収

ご協力ありがとうございました!

おかげさまで以下のとおり資源が回収できました。

●新聞 35,070kg
●雑誌 35,010kg
●段ボール 11,660kg
合計 81,740kg
●アルミ缶等 56,034円

おかげさまでたくさんのリサイクル資源が回収できました。

③体育厚生委員会

主な活動としては、PTA交流会の企画・運営がある。また、資源回収のようなPTAをあげての行事にも積極的に参加・協力している。

PTA交流会では、保護者と先生との親睦を深めるという目的で、各学年の学級委員の協力を得ながら、スポーツ交流会を実施している。ここ数年は、ソフトバレーボール大会を実施している。参加者は、快い汗を流しながら楽しいひとときを過ごしている。



④広報委員会

広報誌の発刊は年3回(学期ごと)行う。広報誌名は『トライアングル〜絆〜』で、昨年度末で第140号の発刊をみている。内容は、金津中学校のPTA活動の紹介を基本として、生徒の活動、学校の活動の三本柱で編集されている。その時々々の時事問題等を考慮して立てられたテーマに沿って、生徒・保護者にアンケートを取ったり、座談会を開いたりして、そこから紙面づくりをすることもある。毎号工夫を凝らしたユニークな紙面づくりで、読む者の心を惹きつけている。



福井県PTA連合会主催の広報誌コンクールにおいては、何度も賞を獲得していて、2004年度には全国コンクールにおいて、日本PTA全国協議会会長賞の受賞という栄誉を手にすることができた。また、平成17年度の第30回福井県コンクールでは最優秀賞を、平成18年度の第31回福井県コンクールでは優秀賞と、連続受賞を果たしている。また、平成19年度、平成20年度、平成21年度と3年連続努力賞に入っている。

なお、この節の説明に使用している各写真は、昨年度制作された広報誌の中から抜粋したものである。

4 今後の課題について

(1) 生徒数の減少

金津中学校のPTA活動を見ていくと、やはり生徒数の減少が大きな影響を与えているということが言える。

資源回収では、地区委員となった保護者と各地区の子どもたちが、資源の回収に携わるわけだが、子どもの数が少ない地区では、その作業のすべてが少数の保護者・子どもの負担となってしまう。皆で分担しての作業ができなくなってしまうわけである。また、子どもがいない地区（今年度は12地区）もあり、その地区は回収作業ができないことになる。

地域と学校との結びつきを強めていかななくてはいけないのだが、生徒数の減少がそれを困難にしている。今後、そうした地域と学校との関わり方を考えていかななくてはならなくなってくると思われる。

(2) 学校備品購入資金等の減少

資源回収では、回収物品の指定も少数で、地方財政も厳しく資源回収に対する今後の助成にも不安がある。行政の不足分を補うこういった事業は各単P共通の悩みとなっていくことであり、市P連内の連携を一層強めることが重要であり、情報を共有し、各学校に平等な利益をもたらすよう、行政に働きかけていくことが大切であると思われる。

(3) PTA行事への関心の低下

昨今の社会状況の中、保護者も公私共に忙しく、年々PTA行事への参加者が減少する傾向にある。PTA交流会のソフトバレーボール大会も参加者を集めるのに四苦八苦する場合もあった。今後のPTA活動を実りあるものにしていくために、中身の濃い有意義な事業を模索する必要があるのかもしれない。

終わりに

経済が発展し、それに反比例するように心のゆとりが無くなってきていると言われる昨今、凶悪犯罪が多発するなど、子どもたちを取り巻く社会環境は刻々と変化している。近年は、安心、安全な環境づくりのため、地域の見守りを重視した対策が重要となっている。しかし、学校、家庭、地域が連携してこそ実る対策であり、そこには心が触れあうつながりがなくてはならない。会員相互の関わりが希薄に成りつつある状況だが、PTAが心の触れあう活動をし、学校、家庭、地域が共にあるということを会員相互が学び合い、地域の中に溶け込んでいくことが肝要である。生徒、先生、保護者が共に歩み、共に育つための一助となるPTA活動を目指していけたら、と考えている。

【質疑応答と意見交換】 発表校 あわら市金津中学校 P T A

坂井市立丸岡南中学校 P T A 沖嶋氏

質問 資源回収の回収量の具体的な数字を広報誌に載せているのですか。

回答 缶・雑誌その他の回収量（kg）や回収結果の金額も載せています。

坂井市立坂井中学校 P T A 近葉氏

質問 学年委員会の P T A 交流会開催にあたっての役割とはどのようなものですか。

回答 学年委員会は、出場メンバーの声かけや学年ごとに順位をつけて、景品の企画選定・購入などを行っています。

質問 資源回収の中で、1 2 地区の回収できない箇所は全く手をつけていないのですか。

回答 サマーコンサートの協賛金は頂いているところもあります。以前、回収は来ないのかという意見もありましたので、今後は一軒一軒回るのは無理ですが、その各地区の区長と調整して、一箇所に集めてもらえれば、回収時に役員が回収に行くようにしたいと考えております。学年委員会は、出場メンバーの声かけや学年ごとに順位をつけて、景品の企画選定・購入などを行っています。

坂井市立丸岡南中学校 P T A 坂井氏

質問 サマーコンサートの概要はどのようなものですか。

回答 各地区の役員に企業や個人の方に協賛金という形で集めさせていただいております。企業においては 3 0 0 0 円から 1 万円もしくはそれ以上、個人の方は 1 0 0 0 円以上から預かっております。生徒数の減少や経済状況なども関係してきますが、例年だいたい 3 0 0 万円ほどの収入がございます。そのお金は各部活動や、学校備品に使用させていただいていますし、その使用内訳の報告もしております。コンサートの当日は、近隣の金津高校とのコラボや、市民の方もお招きして開催しています。

質問 サマーコンサートというのは、金津中学校の吹奏楽部の演奏ですか。

回答 美術部がポスターやプログラムの表面のデザインを担当し、吹奏楽部と合唱部が演奏を担当します。

《今後の課題について》

坂井市立高椋小学校 P T A 瀬野氏

質問 保護者間や P T A 役員と一般の会員との対話が足りていないのかなという印象をもちました。その対策になるであろう事業が、学年懇談会だと思いますが、学年懇談会の具体的な事業内容について教えてください。

回答 毎年内容は変わってきますが、昨年の 3 年学年懇談会では、坂井高校の話や給食センターの統合に関して、携帯電話の問題点などを取り上げました。各学年で気になる内容について、場合によっては講師などを招いてセミナー等を開催しております。

坂井市立雄島小学校PTA 倉野氏

質問 雄島小学校でも同じような感じに取り組んでおりました。意識の低下かどうかは分かりませんが、参加数がものすごく少ない状況です。1年生は参加率が高く、6年生は中学校に行くための不安なのか、そちらも人が集まりますが、間の学年は参加人数は少ないため、事業を取りやめようか、という話も出ています。中学校の方では、間の2年生の参加率はいかがですか。

回答 2年生の方は半数以下の状況です。参加していただけるような魅力あるテーマを探すのが今後の課題だと感じます。

A decorative border consisting of a light gray vine with small, dark gray leaves and star-shaped flowers, framing the central text.

福井県幼・小・中P T A活動研修会

福井・永平寺地区

平成26年6月21日(土)

福井県生活学習館

子どもの心と笑顔、育み隊

～楽しみながら取り組むPTA活動～

福井エンゼル幼稚園父母の会

はじめに

福井エンゼル幼稚園は、昭和41年に福井市加茂河原にて設立されました。

理念は「Like Sun、Like Flower、With Love（太陽のように燃えて、花のように優しく、いつも感謝の心で）」。「意欲的に挑戦し考える力」、「温かくて優しい心」、「ありがとうという感謝の心」をもった子に育ててほしいという願いのもと、子どもの可能性を伸ばすためにバラエティ豊かな教育や自然と触れ合う園外保育を展開しています。また、小学校の学習にスムーズに入って行けるよう、ヨコミネ式教育を実践し成果を上げています。保護者と園が一丸となって、子どもたちの成長の喜びを分かちあえる温かい保育を心がけています。

1 平成26年度 父母の会役員構成

(1) 会員数 218世帯

(2) 役員・お手伝い制度について

エンゼル幼稚園では2歳児、年少、年中、年長の各クラスから1～3名の役員が選ばれます。大きな行事の責任者として役員が企画・準備等を行います。「すべての会員が何らかの形でお世話をする」という意味で、役員以外の保護者会員がお手伝い係に所属する制度を毎年とっています。

役員またはお手伝い係の仕事を運営するにあたり、近年、共働きの家庭が増え、また出産や下のお子さんのお世話など、時間的制約や作業の負担で敬遠されるところですが、エンゼル幼稚園では、「それぞれができる事を、できる範囲で、お互いカバーし合いながらやっぺいこう」、「子ども達の輝く笑顔のため」をモットーに、活動を進めています。

役員： 会長
副会長
会計
書記
広報
誕生会
やまびこ
庶務

お手伝い係： 交通教室
運動会
PTA大会
写真
発表会
クリスマス会
絵本の読み聞かせ
茶話会

2 活動内容（H25年の活動より）

（1）やまびこ交通安全教室

5月下旬に行われた年長児対象の交通安全教室は、道路の歩き方や渡り方、信号機での待ち方などを警察署の指導員さんに教わりながら体験します。普段から車やバスでの移動が多い園児にとっては、どこが危ないのかがよく分からないものです。車に乗っている人に見えるように、しっかり手を挙げて道路を渡れるよう、教えていただきました。父母の会からも道路の各ポイントに立って体験の補助を行いました。

（2）リサイクルバザー

6月と11月に、制服や体操服、通園カバン、ズック袋、私服等のリサイクル販売を行いました。在園・卒園児の保護者より再利用できる衣類等を募集し、値付けから販売までを行いました。毎回大盛況で、販売から30分ほどで売り切れてしまいます。収益は父母の会費（誕生会プレゼント等）として還元されます。

（3）運動会

運動会のプログラム及び進行は園側が行いますが、用具の準備、出場者の招集、園児の着替え、売店、後始末等は父母の会が運営します。父母の会がこの仕事を担うのは、先生方が園児の指導や支援に集中していただく、という意味もあります。

毎年、7月頃からお手伝い係の保護者からの希望を調整し、役割決めを行います。また、役員がそれぞれの役割の責任者となり、当日に向けて細やかな準備をします。先生方の思いと運営上のずれをなくすために、昨年度は時間を設けてもらい、先生方との綿密な打ち合わせができました。

特に会場作りや当日の準備物係、後始末等には、お父さん方が大変協力的で、テントの組み立てや用具の出し入れ、体操マットの後始末など力仕事の面で活躍していただきました。当日は、お遊戯の着替えや競技器具の出し入れ、お弁当・飲み物の販売など、それぞれの役割が効率よく機能するように、連携をとりながら運営できました。これまでの取り組みがお天道様にも通じたのか、当日はとても天気良く、子ども達も元気一杯の笑顔でとても頑張ってくれました。また、開会式の体操や競技の応援で、突如アンパンマンに扮したお父さんが登場し、会場を大いに盛り上げてくださいました。

また、昨年度は「パイレーツ・オブ・借り人やん!？」と題して、先生競技を新設し、いつも子ども達の指導に掛かり切りの先生方にも、競技を楽しんでもらいました。サブライズで園児達にも即席応援団をしてもらい、大好きな先生方の活躍に保護者と共に声援を送りました。



(4) ハロウィンパーティー

「子ども達に何か季節感を感じるような行事ができないか」という声のもと、10月中旬にハロウィンパーティーを企画しました。土曜日の1時間半をいただき、年長・年中組と年少・2歳児組に分かれての活動をしました。

まず、年長・年中組は園でお世話になっている外国語講師のヒュー先生より、ハロウィンにちなんだお話やお化けのこと、挨拶の仕方を教えてもらい、その後、各クラス毎にローテーションで役員による手作りのゲームを楽しんでもらいました。ゲームは玉入れや動物釣り、ボーリングなど、お化けをモチーフにした簡単なゲームで、終わった後に「トリック・オア・トリート」の合言葉でお菓子を配りました。

年少・2歳児組では、自作の紙芝居の読み聞かせを行い、そのお話に登場したお化けを子ども達がやっつけます。お化けの中にはお菓子が詰まっています、子ども達の気分も上がります。お片付けとしてオレンジのポリ袋に新聞紙を集め、みんなで大きなカボチャを作り上げるといった、ひと流れの活動を楽しみました。

今回、父母の会主催の行事ということでホールや教室の飾り付け、ゲームや紙芝居の準備なども役員が独自に工夫して行いました。

一方、課題になったのは園児たちに配るお菓子です。食物アレルギーの心配があるお子さんに対してはお配りしたお菓子の原材料等の表示を予めお知らせし対応しました。

子ども達も、カラーのポリ袋に飾り付けをしたファッションで「トリック・オア・トリート」と元気に合い言葉を言い、お話やゲームを楽しんでくれました。異文化に親しむという点で子ども達の情操教育に一役買えたのではないかと思います。



(5) 絵本の読み聞かせ会

11月の読書月間に合わせ、お帰りの会からお迎えの時間の間を利用して、役員による読み聞かせを行いました。発達段階に合わせて、絵本や紙芝居などを図書館などで選びました。いつも家庭で読み聞かせをするような、ゆったりとした雰囲気だったので、役員も子ども達も楽しい時間を共有することができました。

(6) ソフトバレーボール大会参加

毎年恒例の私立幼稚園PTA連合会主催のソフトバレー大会に、昨年度も2チーム出場しました。エンゼル幼稚園Aチームが福井市で優勝し教育長杯を、また福井県では準

優勝し、私立幼稚園協会会長賞をいただきました。もちろん役員も応援に駆けつけ、共に勝利の喜びを味わうことができました。

(7) 生活発表会

12月に行われる生活発表会も運動会同様、会場の進行や観覧者の誘導、舞台準備、園児の着替え、売店等を父母の会で行います。例年、どの園児も精一杯の演技をしてくれます。我が子、我が孫の成長を見届けようと、園児の家族はもちろん、親戚の方も見に来られ会場は常に満杯状態です。

プログラムに沿って、観覧者の誘導も行います。例年、我が子がよく見えるようにと、席取りのために移動を急ぐ方も見られますが、お互いに譲り合って見ていただく事を呼びかけました。また、プログラムのスムーズな進行のために、しっかりと打ち合わせを行いました。特に、舞台裏での準備や園児の着替えに時間がかかるので、効率の良い作業のために工程表なども工夫しました。

(8) クリスマス会

12月恒例のクリスマス会は各クラスの出し物の後、サンタさんに質問をするなど、みんなで楽しい時間を過ごします。例年、サンタ役は園長先生やバスの運転手さんでしたが、昨年は役員のお父さんがサンタ役をしたので、サンタさんの正体が分からず「本当にサンタさんはいるんだ」と思ったお子さんが多かったようです。サンタさんからのプレゼントを受け取り、歌をみんなで歌った後はケーキで会食します。

昨年度は、生活発表会のすぐ後に行われたので、発表会での歌や踊りが出しものでした。園児の衣装の着替えは、発表会の経験を生かして役員がお手伝いし、クリスマス会の進行も滞りなく終わりました。

(9) 豆まき

豆まきの行事の数日前には、作品展が行われます。毎年すべてのクラスで、この作品展のために「鬼の面」を作ります。園児達のどの作品も個性豊かで、作品展の目玉の一つにもなっています。作品展が終わると製作物で思い切り遊びますが、豆まきもこの遊びの一環です。

子ども達はインタビューを通して、お面を被った感想や作った時の気持ちなどを伝えます。そして、いよいよ鬼の登場です。歌や踊りなどで鬼と触れ合った後に豆まきをします。



昨年は鬼役・和太鼓をたたく役をお父さんやお祖父ちゃんを対象に公募し、協力していただきました。鬼役のお父さん方は少々、本物に近い形相だったのと迫力があつたため、泣き出してしまう子が出てしまいましたが「いい子になるよ」「先生の言うことをよく聞くよ」と口々に誓っていたようでした。まき散らされた豆も役員のお手伝いもあって、手早く片付けられました。もうすぐ次の学年へ進級する子ども達。心の鬼をしっかり追い払い、涙の後は元気ないつもの子ども達に戻ってくれました。

(10) 茶話会

茶話会は、卒業式終了後に先生方や卒園児、保護者で行うお別れ会です。これまでお世話になった先生方への感謝の気持ちを込めて、寄贈品の贈呈式や卒園児による歌の発表などがあります。

茶話会担当の係・役員（年長組以外）が企画・運営し、1ヶ月前からテーブルのセッティングやスライドショー作り、会場の飾り付けなどを考えます。

和やかな雰囲気では進みますが、園長先生からのパフォーマンスや卒園児の最後の歌やメッセージが披露され、これまで育てていただいた感謝の気持ちや子ども達の成長の喜びを、保護者全員でかみしめました。また、各テーブルには卒園児が家族に宛てた手作りのメッセージカードや先生方からの寄せ書き、飾り付けには親から子への手紙など、それぞれの思いが足跡となり、心温まる会場作りがなされました。

昨年度は、年長組の保護者がサプライズで子ども達と先生方に、歌のプレゼントをしました。笑いと涙で綴った素敵な茶話会となりました。

3 おわりに

これからのPTA活動を通し、幼稚園の各行事に携わる事で、これまで見えなかった先生方のご苦労や子ども達の生き生きとした姿が、よりはっきり見えてきました。また、時代の流れによって、これからも増えると予想される課題（アレルギーのお子さんへの対応など）も明らかになってきました。特に限られた時間の中で役員・お手伝い係の仕事をこなすことは、非常に難しい面もありますがパソコンやメールを積極的に利用したり、無理のない範囲でできる作業を選んだりすることで、充実したPTA活動を実践しています。

初めは、なかなか乗り気でなかった役員も「子ども達の喜ぶ笑顔が見たい」「こんな楽しい体験をさせたい」という願いのもとに、役員同士が団結し、みんなで一つの行事を作り上げて達成感を味わいながら積極的に活動に参加しています。今後も子ども達の心と笑顔の育みを意識して、楽しくPTA活動に携わっていきたいと思います。

【質疑応答と意見交換】 発表校 福井エンゼル幼稚園父母の会

福井大学附属中学校 P T A 佐々木氏

質問 役員の選出はどのようにされていますか？

回答 自選、他選や、先生方の声掛けによって選出されます。

共働きの家庭が増え、また、出産や下のお子さんの世話など、時間的制約や作業の負担で敬遠されるところですが、子ども達の輝く笑顔の為に、それぞれができることを、できる範囲で、お互いカバーし合いながら活動を進めています。

福井市棗小中学校 P T A 宇佐美氏

質問 豆まき鬼役や運動会などの行事でお父さんが参加される姿が沢山見られましたが、父親に参加してもらうには、どうしたらよいでしょうか？

回答 共働きの家庭や出産や下のお子さんがおられる場合、また、お父さんに手伝っていただきたい行事の時、アンケートを配布、公募し協力していただきました。

親子でふれあう、地域とふれあう

～集団が集団を育てるPTA活動をめざして～

福井市長橋幼・小学校PTA

はじめに

長橋小学校は福井市の西側にあり、長橋、北菅生、南菅生の3地区の児童が通っている。日本海に面しており、国道をはさんで学校のすぐそばが海となっている。東側の斜面の上の高台には海岸段丘が広がっており、水田、畑、梅園に利用されている。

長橋小学校は最近5年間で児童数が半減し、平成21年度からは完全複式となっている。学年を超えて活動することが多いため、児童同士の関係が深い。先生の間も行きやすく、丁寧な個別指導を受けることができる。しかし、少々言葉足らずでも以心伝心で自分の思いが相手に伝わるため、フォーマルな話し方が苦手な面が見られる。大人数の中で切磋琢磨する機会が少ないので、高校へ進学したときうまくやっていけるか、自分の力を伸ばしていけるか、保護者としても不安を感じている。目が行き届きやすいという利点を生かしながら、鷹巣小中学校などほかの学校の子どもたちや保護者、地域の方々との交流を大切にすることが課題となっている。また、学校行事も、子ども、保護者はもちろん、地域の方にも参加していただき盛り上げていかなくてはならない。保護者で漁業や農業に従事している方が少なくなり、意図的に機会を設けないと、地域の海や山での体験ができない状況である。

そこで、長橋幼・小PTAでは、保護者同士の交流、学校と地域の交流、保護者と子どもたちとの交流を大切にし、子どもたちに地域のよさを感じさせ、地域を愛する心を育てる活動を行っている。これらの活動では、PTAが地域と学校の橋渡しを担い、その中心となっている。

1 地域の文化・産業体験の支援

(1) 梅もぎ・梅ジュースづくり・梅干しづくり

福井市西部越前海岸の海岸段丘では梅を栽培している農家があり、鷹巣地区のJAには梅の選果場もある。本校のPTA会員にも梅園を所有している方がおり、毎年、梅も



ぎ体験をさせていただいている。今年度も梅の種類や梅もぎのやり方を持ち主の方に説明していただいた後、児童全員で収穫した。学校にて児童は、収穫した梅で梅干しや梅

ジュースを作った。特に、梅干しづくりではPTA会員がゲストティーチャーとなり、児童に赤シソの性質を説明したり、作り方を指導したりした。作った梅ジュースは8月から9月の運動会や連体の練習の後や他校との交流の際に賞味している。また、梅干しは給食の時一緒に出して食べている。

(2) わかめ干し体験

岩浜が続くこの地域の特産物の一つに「板わかめ」がある。PTA会員の方を講師にわかめ干し体験を行った。朝、海に潜って収穫したわかめを洗い、干す作業を見学した後、いただいたわかめを実際に学校に持ち帰り、屋上で干した。作った板わかめは家に持って帰るとともに給食の時ご飯にかけて食べた。また、PTAの方の作業場で板ワカメを加工し瓶詰めする様子も観察した。

今年度、3、4年生は総合的な学習の時間に地域の海を題材とした学習を進めている。このワカメ干しの後、水族館から講師を招いての海の観察、アワビの稚貝やマダイの稚魚の放流体験・見学などを行った。



(3) 奉納相撲や各地区の祭礼への参加

長橋地区の伝統行事である水分神社の水神様への奉納相撲は「ふくいのおいしい水」にも認定されている湧水に係る伝説にもとづいており、毎年6月24日に行われている。元々は大人による奉納相撲であったが、平成に入り、子ども相撲も行うようになった。PTAも



小学生の部の運営に携わり、男子児童全員が参加した。町内から多くの方が応援に駆けつけ、児童も花相撲、勝ち抜き戦などの取組に積極的に出場した。

また、地区の祭礼においても保護者の世代は大切な役割を担っており、児童も子ども太鼓やお神輿に積極的に参加している。

2 親子ふれあい学級の実施

親子ふれあい学級は、PTA家庭教育委員会が計画・運営している行事である。親子で楽しく活動するとともに、会員相互の親睦を図り、学校と保護者の連携を深めることをねらいとして行われている。

(1) 6月…食育も兼ねたジャンボ太巻き作り

授業参観、合唱の発表、学校保健委員会と学校の催しの後、ジャンボ太巻き作りを行った。家庭教育委員会が作り方を説明した後、児童・保護者・教職員が3つのグループに分かれた。巻きすの上に長いのりを置き、分量を量って酢飯を広げて、具材を載せた。一人が約30cmの長さを受け持



ち、心を一つにして一齐に巻き、約4mの太巻き寿司を3本作った。その後、昼食会を行った。この巻きすはホームセンターで日よけのすだれを買ってきて、それを切って作ったもので、家庭教育委員会の苦心の作品である。また、今回の取組に対して、「みんなで長い巻き寿司を作ることで、親同士、親とよその子など、みんなでの活動ができて新鮮だった。」という声があり、有意義なものとなった。

(2) 11月…理科工作とスクールカウンセラーと保護者の座談会

2回目の親子ふれあい学級は教育ウィークにあわせて、授業参観の後、カタカタ人形づくりを行った。まず、型に沿って人形を切り抜き、次に、発泡スチロールの板にボンドで竹ひごを固定して思い思いの絵を描き、人形が落ちてくる台を作成した。

昼食は親子マイ弁当で、親子で作ってきたお弁当を一緒に食べた。昼食後はベルマークの集計をした。



そのあと、スクールカウンセラーと保護者の座談会を行った。座談会に教職員は入らず、飲み物とお菓子を用意して和やかな雰囲気になるよう工夫した。日頃の子育ての悩みや、カウンセラーが子どもたちと懇談して気がついたことなどを話し合った。何か意見がまとまったわけではないが、お互いの子育て感や悩みが聞けてとても参考になったという感想があり、好評であった。

3 地区・学校が連携した体育大会

長橋幼・小学校では、体育大会を地区と合同で行っている。8月、PTA役員、地区の婦人会代表、青年会代表、学校の体育主任が集まり、体育大会のプログラムと種目内容を検討した。

昨年度の反省で

- 保護者の家族以外の地区の参加者が少ない。
- PTAは体育大会の運営と地区や親子種目の参加があつてとても忙しく、子どもの競技を見る余裕がなかった。

が出されており、今年度はプログラムの見直しを行った。話し合いの結果、

- 地区の選手種目(得点種目)を減らして地域のオープン参加種目をつくり、誰もが参加しやすくするとともに種目の内容を易しくする。
- 地区の種目を午前中に集める。
- 午後には児童の種目や親子の種目を集める。

の改善を行うことにした。9月の体育大会では、児童の家族以外にも地区の多くの方々に参加した。保護者も午後ゆっくと児童の種目を応援することができ、好評であった。



4 地区への広報活動の充実

P T A広報誌を地域全戸に配るとともに、P T A行事や学校行事の案内も全戸配布し、参観を呼びかけた。体育大会の朝には、参加のお願いを有線放送で流してもらった。

5 花いっぱい運動の実施

寄贈されたサフィニアの苗を全校で育て、学校を花いっぱいにする活動を行った。花の苗の一部は各家庭に持ち帰り親子でも育てた。また、きれいに咲きそろった鉢やプランターは地域の福祉施設や保育園、公民館、近隣の小学校にプレゼントし、地域全体を明るくする取組にしている。



終わりに

- 地域との関わり

児童のアンケートでは、「自分は、梅もぎやわかめ干しを体験したり、デイホームや地域の行事に参加したりして楽しい。」に全員が「Aよくあてはまる」と答えており、地域の特色を生かした活動に対し意欲的であることが分かる。また、「自分は、他の学校の子どもたちや地域の方と楽しく交流している。」に対してもほとんどの児童が「Aよくあてはまる」と答えており、地域との交流を楽しみにしていることが分かる。児童は、地域のよさを感じ地域を愛する心が育っていると考えられる。

- 保護者同士の交流

ジャンボ太巻き作りでは、「他の家族と一緒に作る活動をする機会が少ないので今回の取組は良かった。」という感想が寄せられ、意義のある活動であったことが分かる。また、スクールカウンセラーとの座談会では、「子どもに対してちょっと言葉のかけ方を変えることで親子の関係がとてよくなることが分かった。」「他の保護者の方の価値観や子育てを聞いて参考になった。」「一方的に聞くだけでなくみんなでワイワイと思いを語る機会ができてよかった。」などの感想が寄せられ、好評であった。

- 活動の反省点

子どもが小学校を卒業すると、小学校への足が遠のきやすく、長橋小学校でも体育大会以外の行事で来校するのはほとんどが児童の家族である。P T A行事や学校行事の案内を全戸配布し、参観を呼びかけているが、まだ効果は十分にはあがっていない。P T A会員同士はもちろん、日常の地域の方と接する機会を通して行事への参加を呼び掛けていきたい。

【質疑応答と意見交換】 発表校 福井市長橋幼・小学校 P T A

福井市宝永小学校 P T A 小谷氏

質問 地域の方と関わっていく中で、地域の中から出てくる要望があれば教えてほしい。

回答 地域が高齢化しているので、小学校の子どもたちとふれ合う場をお年寄りが待ち望んでいる。参加を楽しみにしており、できるだけ足を運べるようにしたいので、そのような行事があれば早めに教えてほしいとの要望が出てきている。

永平寺町立志比北小学校 P T A 佐々木氏

質問 少人数のため P T A だけで盛り上げていくのはなかなか難しいと思うが、地域の方がどのように学校の活動に協力しているのだろうか。また、そのような話し合いをする場は設定されているのだろうか。

回答 長橋小学校は児童数が少ないこともあり、鷹巣地区の運動会とは別に、長橋地区と小学校の運動会が合同で行われている。そのために P T A、地区の青年団・婦人会の代表が集まって話し合いをする機会をもっている。また、地区の祭りも地区の青年団と一緒に練習などの活動をしている。P T A と地域が一同に集まって話し合いをする場は設定されていない。

福井市高巣小学校 P T A 北浜氏（補足説明）

鷹巣地区（鷹巣中学校、鷹巣小学校、長橋小学校）では鷹巣 P T C A という P T A、学校、地域の各種団体の代表が集まって地域の教育力の向上に向けて活動している。昨年度からは「鷹巣っ子育ちの三か条」を作成し実践している。

ふるさとへの愛着を育てるPTA活動

福井市美山中学校PTA

1 はじめに

(1) 美山中学校について

美山中学校は、福井県嶺北地方の中央部に位置し、福井市全体の4割の面積を占める旧美山町にあります。地域全体の9割が山林なので、学校は緑豊かな環境の中にあります。

合併前の旧美山町には6つの地区、下宇坂・芦見・羽生・上味見・下味見・上宇坂がありました。その当時は中学校校区には6つの小学校がありましたが、現在は下宇坂小学校、美山啓明小学校、羽生小学校の3つがあります。

生徒数の減少が進んでいる学校で、現在の生徒数は82名です。

しかしながら、生徒たちは、主体的に静かな学習環境づくりを行うのが伝統になっています。基本的な生活習慣を確立していこうという生徒の取組は、(元気なあいさつ、まじめな清掃、中学生らしい身なり、時間を大切に)を総括して「生活4原則」と呼ばれ、昭和58年総合教育指定発表以来30年を超える伝統になっています。さらに平成3年に導入されたチャイムのない生活「ノーチャイム」も現在まで受け継がれ、生徒たちは、一日中大変落ち着いた環境の中で過ごしています。

(2) PTA組織の変遷

かつて学級数も多く学級の生徒数も多かったころには、役員および学級委員会・進路対策委員・6つの地区を代表する地区委員で構成していました。

しかし、生徒数の減少に伴い、6つの全ての地区からの選出が難しくなったのを受け、平成22年度からは、下宇坂小・羽生小・美山啓明小の3つの小学校区から委員を選出となり現在に至っています。

また、常任委員会の再編も行われています。かつては、総務・厚生・文化・教養・生活・部活の6つ委員会がありましたが、平成11年度からは総務・福祉教養・文化・生活・部活の5委員会に、さらに、平成16年度からは総務・福祉教養・文化・生活の4つの委員会になり、現在に至っています。

(3) 美山中学校PTAの組織

平成26年度の会員数は、95名です。学級委員・地区委員・教員全員29名(保護者18名・教職員11名)で各種委員会を構成します。各種委員会は現在4つです。今年度は、総務部(6名)・福祉教養部(8名)・文化部(7名)・生活部(8名)で活動をしています。

2 活動内容

生徒数の減少に伴い、PTAの組織や常任委員会の活動内容も見直しを図ったり、新たな活動を企画したりしているPTAですが、幸いなことに学校教育への関心は高く、会員の多くの協力が得られ、成果を上げることができました。

以下にふるさとへの愛着を育てるPTA活動として、4つの取組を報告します。

(1) 環境整美活動

5月に、生活部が主催する学校奉仕作業が行われました。全保護者、教員、生徒が参加して、校舎まわりの堤防の草刈、校舎の清掃を行いました。この作業は恒例の活動となっています。

校内・グランド・学校周囲・屋上と保護者や教職員は場所を分担し清掃を行います。生徒たちも校庭の草取り、校舎の窓ガラスふき、ベランダの清掃、側溝の清掃に一生懸命参加します。

当日参加できないという保護者の中には、前日や当日の作業開始前の早朝に学校に来て、校舎回りの堤防の草刈りや校舎の清掃をしてくださり、参加率は100%でした。



朝まではうっそうと草の茂っていた堤防もすっかり美しくなりました。学校内外がすがすがしい空気に満ちます。美山中生徒が大事にしている基本的な生活習慣「生活4原則」の一つに「まじめな清掃」がありますが、親が学校清掃に一生懸命取り組んでいる姿も子どもたちに大きな影響を与えていると思っています。



(2) 家庭教育に関する活動

① 地域懇談会

福祉教養部が計画する地域懇談会は、ここ数年3地区合同で行っています。また、美山中学校PTAは美山地区の3つの小学校PTAとで福井市PTA連合会Fブロックを構成しています。そのため、Fブロック行事と共催という形で実施しました。福祉教養部は地域懇談会の運営に参加し、会場設営や懇談会の司会・記録を行いました。



懇談会は子育てトークと銘打ち、「子どもの安全・安心」「家庭での子育てのヒント」を大テーマに、保護者や学校関係者、地域の人が8つのグループに分かれて、気軽に子育てに関する話を語り合いました。

感想の一部には、

- ・いろいろな年代の人や先生方と日ごろ話ができないことができてよかった。
- ・普段聞けないスマホやラインのことが聞けた。
- ・ネット社会の怖さを知ることができ参考になった。
- ・反抗期になった子どもの言葉かけや育て方について話し合うことができた。しかり方のタイミングも大切だと思った。
- ・我が子の子育てを思い出して話が楽しくできた。

など、肯定的な感想が多く、事後アンケートの結果では、8割以上の方が「満足」と回答していました。

②親子のコミュニケーションの推進

生活部と総務部が合同実施の活動です。我が家の三原則・一筆啓上を活用しました。特に我が家の三原則については、県P・市Pの選考とは別に美山中PTAでの優秀賞選考を行いPTA新聞で紹介しました。

我が家の三原則

入選

一筆啓上

優秀賞

おばあちゃんへ
いつも健康管理ありがとう。
朝食の梅干し、さらうけれど、
風邪をひかないよ。ありがとう。

和樹へ
だいやいや食べてくれる梅干し
だけれど、本当に風邪をひかな
くなかったね。良かったね。

松田あさひ、森水さくら、山田千紗季

一筆啓上

優秀賞

お父さんへ
朝が苦手な私を、いつも起して
してくれてありがとう。これか
ら私を応援してください。
ヨロシク！

美咲へ
毎朝、笑顔であいさつをして
くれてありがとう。あなたの
笑顔が、お父さんの元気の源です。
美咲カンパシ！

水本 美咲

一筆啓上

最優秀賞

お母さんへ
家は、笑いがたえない家族だ
ね。嬉しいこともあれば、み
んながいるおかげで笑って喜
びます。

潤朗へ
つらい時もあるよね。
でも大丈夫！みんながついて
いるよ！泣いていても笑ってい
ても日は通ります！

小泉 潤朗

一、笑って暮らそう。

二、「おはよう」「おやすみ」忘れずに。

三、今日の努力は明日の力。

(3) 学校行事との連携

これも恒例となっている活動ですが、福祉教養部が企画して学校祭にてバザーを出店しました。各家庭より品物を集め、前日より値段決め、陳列を行い、当日販売しました。その収益を学校の災害時備蓄用品に充てています。

(4) 地域活動との連携

美山公民館が平成8年度から行っている国道158号線のフラワーロード作業を総務部・生活部合同で企画し、実施しました。

5月から11月までに6回作業日がありましたが、その内のいずれか1回だけでいいので参加して下さい。と呼びかけたところ延べ76名の参加をいただきました。

前半は大変暑い中で、そして後半は冷たい雨の中での活動もありましたが、作業に協力したことで、地域のボランティアの方々がこの作業以外にも多くの手間と時間をかけて心と環境づくりに関わっていることに感謝するとともに、その一端を担うことでこれまで以上に道ばたの花壇を気にかける契機となりました。



フラワーロードは、不死鳥のねがい推進協議会から金賞と努力賞をいただきました。その栄誉の一端を担うお手伝いできたことは、とても有意義だったと思います。

3 成果と課題

会員数の減少により、常任委員会の再編や活動内容の見直しを図りながら、PTA本来の目的を達成できるよう、どのように工夫したらよいか大きな課題といえます。二年前までは、「そばまつり」という地域行事を活用して、中学校の部活動の広報や学校の教育活動の支援を行っていました。しかし、会員数の減少とともに委員の負担が大きくなってきたこともあり、活動そのものを見直しを図り、先に述べたフラワーロード作業への参加を実施しました。おかげさまで、会員のみなさんの理解を得て、この活動もよい成果を残すことができました。

私たちの抱える課題は、これからもPTA活動のあり方に問いを投げかけ続けることでしょうか、今後も子どもたちのために、私たちは努力を続けていきたいと思っています。

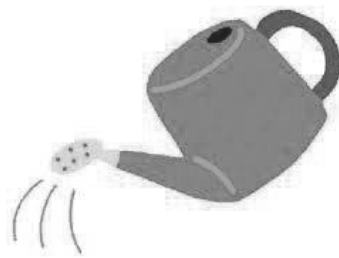
【質疑応答と意見交換】 発表校 福井市美山中学校PTA

福井市森田小学校PTA 長田氏

質問 美山は、皆が一致団結して頑張っている様子が分かりました。森田小学校では、年々児童の数が増えていますが、増えているのは核家族です。それに反して、PTA活動は減っています。最近不審者が出ていることもあり、地域の連携プレーが大事になってきています。地域懇談会の話聞いて、地域で活動していることが素晴らしいと思いました。そのことについて教えて下さい。

福井市美山中学校PTA 山口氏

回答 Fブロック活動事業の一つとして、「子育てほやほやトーク」と題し、前半は親子ヨガを行い、後半は保護者のみ参加して、地域懇談会を行いました。その間、子どもには別室にてバルーンアートを楽しんでもらいました。又、小さいお子様のいる方にも参加していただけるよう、生涯学習室の「ちく・たくサポーター」に協力してもらいました。現在子育て中の保護者と、子育て経験者の話し合いは、双方にとって良い機会になったと思います。





福井県幼・小・中PTA活動研修会

奥越地区

平成26年6月22日(日)

学びの里「めいりん」

平泉寺小学校の活動報告とPTAや地区との関わり

勝山市立平泉寺小学校PTA

はじめに

勝山市立平泉寺小学校は、勝山市の南東部に位置し、平泉寺白山神社のお膝元の学校として歴史のある小学校です。

平泉寺白山神社は、コケがとても綺麗で幻想的な雰囲気が漂い、全国から毎年たくさんの観光客が訪れてくださいます。今年の春に公開された映画「サクラサク」のロケ地としても紹介され、平泉寺小学校の児童もエキストラとして参加させていただきました。



1 本校のPTA活動

平泉寺小学校は、全校児童24名の少人数の学校ですが、地域に根ざし、伝統ある活動を行っています。それでは、学校行事を中心に、その中でのPTA活動や地区との関わりについてご紹介します。

(1) 資源回収 5月中旬

本校は家庭実数が19戸と少ないため、各地区の区長を通じて平泉寺町全体に資源回収のお願いをしています。資源回収当日は、保護者と教職員が各地区に出向き、各家庭の前に出された新聞紙、雑誌、段ボール、空き缶等を回収します。軽トラックやワ



ゴン車が回収した資源でいっぱいになると、リサイクル業者まで持って行きます。1グループは車4～5台で移動しての回収ですが、地域が広いので約4時間の作業です。

(2) フキとり 5月中旬～下旬

春に本校独自の行事として、全校児童が行うフキとりがあります。これは、昭和35年頃から50年以上続いている伝統行事です。児童が自分で目標を決め、学年毎に決められた場所でフキを採ります。採ったフキは、児童が保護者や地区の方々と一緒に仕分け（長さをそろえて束ねる作業）をします。そして翌日、地区内の2つの市場で販売を行います。今年は仕分けだけでなく、フキとりに初めて保護者が参加しました。



(3) 半日奉仕作業 8月中旬

お盆過ぎに行われる親子半日奉仕作業には、PTAのみならず公民館に広報をお願いして募った有志の地域住民も参加してくださいませ。小学校を「地域の核をなす施設」と考えて快く参加して下さる方が増えてきていてありがたいです。作業内容は、校地内の草刈り・ツタ除去作業、グラウンドの側溝の掃除、屋内の清掃（トイレ掃除、ガラスふき、蛍光灯ふき、換気扇の掃除）、池掃除と多岐にわたります。人数が少ないので大変ですが、一緒に額に汗した後は、お礼に児童が作ったカキ氷を食べていただきます。



(4) 平泉寺町文化祭 10月下旬

平泉寺町文化祭では、平泉寺公民館が平泉寺町全体に、審査会のために農産物出品のお願いをしています。農産物は文化祭前日に地域の方々が会場まで持ってきてくださいます。集まった農産物は文化祭当日、品評会の後で即売されます。販売の収益金は、本校PTAの活動費に充てられます。PTAが、前日は会場準備および設営、農産物の陳列、出品された農産物の受け付けを行います。文化祭当日は出品者へのお礼状と粗品の配達、購入予約の受付および代金の受領、即売会での販売、会場の後片付け、会計処理

を行います。両日、どの活動も保護者が先生方と一緒にいきます。



(5) ヨシ刈りとよしず作り 11月、12月

勝山市の児童は、児童は総合的な学習の授業において、身近な環境問題について調べています。平泉寺小学校では六呂師高原の池ヶ原湿原（平泉寺町池ヶ原）の環境保全活動に取り組んでいます。

3年前に貴重な植物を守るため、11月にヨシ刈りを始め、葦の有効活用として12月によしず作りを実施しました。2年目には親子行事として展開し、児童と一緒によしず作りを行い、子どもから親がよしずの作り方を教えてもらうことで、親も今まで気づかなかった地域の環境活動について考えるようになりました。さらに昨年および今年は、学校行事として大きく発展させ、PTA、地域の方（池ヶ原湿原連絡協議会、平泉寺地区子ども応援ネットワーク、平泉寺公民館、平泉寺地区高齢者連合会、福井県自然保護センター）にも一緒に参加してもらい、1年生から6年生まで全校児童が参加してのヨシ刈り、よしず作り（H26も12月に実施予定）を行いました。昨年は、約2時間で5枚のよしずが完成し、学校の校舎やプールの日よけ、平泉寺保育園の日よけに使用したり、越前市のコウノトリ保護区で有効活用されたりしています。児童からは、『池ヶ原の遊歩道の整備を』『ぜひとも来年以降も継続して活動を続けていってほしい』等、要望や今後の課題が投げかけられています。せっかくできた新しい活動の流れを途切れさせずに、新たな伝統になるよう継続実践していきたいと思うようになりました。



(6) その他

5月に行われる校内マラソン大会では、交差点や横断場所等の監察に保護者と地域の方がボランティアで参加します。夏休み中のプール監視にも児童の安全を考え、先生方と一緒に1日当たり2名ずつ保護者がボランティアで参加します。その他に、大晦日に平泉寺白山神社の参道に灯すエコキャンドルを作る活動や、年2回のあいさつ運動もあります。

保護者の中からも児童と一緒にやりたいことがどんどん出てきています。小さい学校ですが、少しずつ活発なPTAになってきていると実感しています。



2 今後の課題

今後の課題としては、どうしても学校からの行事に協力するという形になり、PTA独自で発信していく行事が少ないということや、積極的に参加する方の顔ぶれがだいたい同じであること、保護者同士の横の関わりが少ないこと等があげられます。いかに保護者同士の関わりを多く持ち、親も楽しみながらより多くの人にPTA活動に参加してもらえるか、また、地域との関わりをもっと良いものにしていけるかを考えていきたいと思えます。

今後も学校、地域とともに協力し合っていけるようなPTA活動を目指していけたらと願っています。

【質疑応答と意見交換】 発表校 勝山市立平泉寺小学校PTA

勝山市立勝山北部中学校PTA 杉元 氏

質問 小規模学校におけるPTA活動の運営状況はどうか。親の負担はどうか。

回答 児童数25名、世帯数20家族、会費以外に地区の方からも支援していただいている。その他、半日奉仕作業、雪囲いなど、地区のボランティアの方にも助けていただいている。役員負担については、役員一人一人の負担が多くなっており、それが今後の課題となっている。

大野市陽明中学校PTA 南部 氏

質問 環境学習の取り組みで、親子とも環境に対する意識は変わったか。

回答 親子で学校行事に参加することで、地元の環境整備にも関心を持つようになってきていると思う。ただし、ここ数年池ヶ原湿原のヨシ刈りについては、ヨシを刈り、よしずを作って終わるという状況なので、もう少し掘り下げた取り組みが必要だと思う。

「地域と共に育てよう 心豊かな生徒たち」

～地域との連携・参加活動を通じて～

大野市尚徳中学校 P T A

はじめに

尚徳中学校は、大野市の北東部の田園に囲まれた緑豊かな自然環境のなかに建っています。昭和37年に、当時の阪谷中学校、富田中学校、他2校が統合して、尚徳中学校が創立しました。当時より、「徳（のり）の道」、「学問に親しみ果敢に行動せよ 喜びあう人との交わりを重んじ、もって己の人格を陶冶せよ」を建学の志とし、生徒の育成が進められてきました。創立から50年余りが経過し、現在、生徒数は90名、P T A会員数は、教職員も含めて97名です。



今回は、本校P T Aが学校・生徒・地域のパイプ役となり、お互いに連携して平成25年度から今年度にかけて取り組んだ実践を中心にご報告いたします。

1 本校のP T A組織と主な活動について

本校のP T A組織は、役員会のもとに、総務・厚生委員会、子育て・文化委員会、各学年委員会からなる常任委員会と、各地区のあすなろ委員会で実行委員会を構成しています。P T Aのそれぞれの立場で知恵を出し合い、みんなで楽しみながら活動を行っています。

役員会は、予算案の編成や総会の議案作成などを担当します。総務・厚生委員会は、親子美化活動を企画しています。子育て・文化委員会は、広報誌を発行したり、講習会や研修会を開催したりしています。学年委員会は、各学年の親睦を深めたり、子育ての情報交換をしたり、進学説明会を開催したりしています。あすなろ委員会は、登下校の見守り活動や各地区の「ふるさと生き生き作戦」などを行っています。



2 学校・生徒・P T A・地域との連携事業について

生徒が、一人の人間として人間関係力や社会性を高めながら健やかに成長するためには、地域活動への参加を通じた人との出会いや交流が重要な機会となります。P T Aが、学校・生徒・地域との連携を図り、共に活動する取組みを2つ紹介します。

(1) 「ふるさと生き生き作戦」について

「ふるさと生き生き作戦」は、学校・家庭・地域が連携し、各地区の実態や特色に合わせて、平成14年度から取り組んでいます。あすなろ委員が、学校と各地区

とのパイプ役となり、毎年、4月から9月の間で計画、調整し、小学生と中学生が、地区の共同作業や行事に参加しています。

主な活動を紹介すると、富塚地区では、村づくり運動の一環として、小・中学生が、親や地区の住民と共に集落花壇の花の世話や草取りをしたり地区内で空き缶拾いをしたりしました。下麻生島地区では、地区の祭で、小・中学生が子ども御輿を担いで練り歩き、地区の住民と交流を深めました。伏石地区では、地区の神社の建替えがあり、その完成落成式に地区の住民と一緒に小・中学生も参列しました。一生に一度あるかどうかの祭事に参列し、とても貴重な体験をしました。

このように、各地区でふるさと生き生き作戦が取組まれ、平成26年度は、26地区、小学生103名、中学生67名が参加しました。



(2) 「シバザクラ植栽事業」について

本校は、校舎南側の土手の雑草や、土手から流れ込んで側溝に溜まる土砂への対応に苦勞してきました。これまで、毎年、親子美化活動をはじめとするPTAと生徒による奉仕活動の中で、草取りや泥上げ作業を行ってきました。

ところで、本校と隣接する富塚地区では、4年程前から国や市の補助金を活用して、学校周辺の通学路や田んぼの畦に、シバザクラを植栽する景観形成活動を行っていました。そこで、PTAでは、学校・生徒・地域との連携、地域貢献をサポートして、校舎南側の土手の雑草対策や側溝の泥上げ対策を進めることにしました。PTAが、学校と富塚地区へ事業の提案を行い、それぞれの了解を得て、校舎南側の土手にシバザクラを植栽することにしたのです。最初に、富塚地区の役員とPTA役員、総務・厚生委員、学校職員が集まり、行動計画を協議することから始めました。



シバザクラを植栽する校舎南側の土手は、延長約150m、法面の高さ平均約8mと非常に大きなものです。ここに、シバザクラ4800本を学校、生徒、PTA、富塚区民が作業を分担し、力を合わせて植栽するというビッグプロジェクトです。

計画段階で、作業量が非常にたくさんあることが分かりました。そこで、5月から10月までの約半年間で、みんなが安全に、そして楽しみながら作業を終えられるように無理のない工程を計画しました。また、学校、生徒、PTA、富塚区民で、連絡や打合せをしながら、作業を分担して進めていくことにしました。

「シバザクラ植栽事業」は、平成25年5月、富塚区民により着手しました。土手の雑草を取り除き、湧水対策として暗渠排水工事を行いました。6月には、砂利や赤土を入れ、土手の法面を整形して、植栽シートを張っていきました。そして、7月には、いよいよシバザクラの苗を植え込んでいきました。



8月の第3日曜日、恒例の親子美化活動に合わせて、土手の平たい部分に、みんなでシバザクラを植えました。作業の前に、富塚区民からシバザクラを植える場所や植え方について説明を聞きました。そして、1年生の親子でシバザクラをどんどん植えていきました。親たちが、シートに切り込みを入れて土を掘り、続いて、生徒たちが苗を植えるように仕事を分担しました。親子の協力で作業がはかどり、午前中には、約300平方メートルの場所に1200本のシバザクラを植えることができました。



2学期に入り、今度は、3年生全員がシバザクラのデザイン植栽を行いました。デザイン植栽は、6m×6mのスペースで行いました。尚徳中の「S」の字を白色のシバザクラで形どり、その周りをピンク色のシバザクラで囲みました。3年生がシバザクラを植える前に、富塚区民から植え方の手ほどきを受けました。共同作業を通して、人と人との絆が深まります。シバザクラを上から順番に一つ一つ丁寧に植えて



いました。シバザクラは、根が付きシバが広がるのに数年かかります。それまでは、定期的な除草が必要です。そして、待ちに待った今年の春が訪れました。シバザクラ植栽事業に関わったみんなの努力が実り、シバザクラが見事に開花しました。

3 学校・生徒・PTA・地域との連携事業の成果と今後の課題について

(1) 成果

毎年、「ふるさと生き生き作戦」について、参加した保護者や生徒の皆さんから意見や感想をいただき、報告書にまとめています。生徒の皆さんから肯定的な意見や感想がたくさん寄せられました。その幾つかを抜粋して紹介します。



- ・ 地区の人と楽しく交流できました。
- ・ 協力し合って作業をしながら、感謝の心が芽生えました。
- ・ 地域への愛着が芽生えました。
- ・ 将来、青年団の運営などに参加したいという自覚ができました。
- ・ 地区を自分達の手できれいにする意識が持てました。



成果をまとめると、「ふるさと生き生き作戦」では、生徒と地区の住民との交流や連携が図られました。「シバザクラ植栽事業」では、懸案の学校周辺の環境整備が進みました。そして、学校のシンボルをつくることを通して、学校や地区のために貢献しようという心を育むことができました。

(2) 今後の課題

「ふるさと生き生き作戦」の課題としては、年々、参加する生徒の数が減ってきていることがあげられます。各地区に住んでいる本校の生徒数の平均は3人以下となりました。それに加えて、部活動や各種団体の行事との日程調整が難しいこともあります。

このことから、生徒や地区の住民に目的意識を高める手立てが必要です。生徒数が減少するなかで、今後、活動をどのように計画し、実施していくかが重要です。



4 おわりに

生徒数の減少、インターネット環境の発達など、学校を取り巻く環境が激変しています。地区の住民であり保護者でもある私たちが、学校・生徒・PTA・地域をつなぐパイプ役となり、一致団結して生徒の健全育成を進めることは、今後、より一層必要です。

私たちは、できる限り生徒をサポートしていきます。今後も、尚徳中学校の生徒たちには、「徳(のり)の道」の実践として、「ふるさと生き生き作戦」をはじめとする自主的な地域活動への参加を通して、地域に貢献することの素晴らしさを実感し、心豊かな大人に成長してくれることを期待し、この実践報告を締めくくらせていただきます。



【質疑応答と意見交換】 発表校 大野市尚徳中学校 P T A

大野市有終西小学校 P T A 会長 足立氏

質問 ふるさと生き生き作戦は、生徒と地域を結びつける趣旨で行われている。中学生と小学生が共に活動しているが、保護者の参加はどうなっているか。

回答 あすなろ委員が、集落ごとに日時や活動内容を計画し、当日も中心になって運営している。活動日には、他の保護者もたくさん参加している。小学校と中学校に分かれて行事を計画すると負担が増える。合同で行った方が参加しやすい。

勝山市立勝山北部中学校 P T A 会長 長岡 渉 氏

質問 シバザクラ植栽事業について、予算の確保、今後のスケジュールと課題について説明してほしい。

回答 今後も富塚地区と打ち合わせを密に行い取り組んでいく。シバザクラ植栽事業は、富塚地区が取り組んでいる農地・水・環境に関する国と県の補助金事業の一環で実現した。課題については、まだ把握していない。生徒や P T A が効率的、効果的に関わっていけるよう課題を見つけて、一つ一つ解決しながら、生徒が地域に貢献しようとする心を育てていきたい。

大野市開成中学校 P T A 会長 高津 琴博 氏

質問 あすなろ委員会が、各地区で大変貴重な行事を 10 年間にわたって継続されていることに敬意を表す。地区ごとに毎年どんなことを計画しようか悩むこともあるかと思うが、継続させるためにどのように工夫しているか。

回答 他の地区の取り組みを参考にすることもある。地区の行事に親子で一緒に参加する形態をとっているところもある。生徒が無理なく楽しく参加できるようにしている。

大野市小山小学校 P T A 副会長 吉田 安宏 氏

質問 シバザクラの植栽は、幅広い人たちを巻き込んだ事業で、大変ご苦労されたことと思う。心より敬意を表す。地域の小・中連携事業について、今後、小学校も交えた活動などで、何か考えがあるか。

回答 小学生を交えた連携は、ふるさと生き生き作戦以外には、あまり考えていない。地区では、小学生と中学生が顔見知りで、親同士もよく知っているので、連携した活動をしやすい。学校行事への保護者の参加率が高い地域性がある。中学校でも小学校でも学校行事への参加率が低下しないよう呼びかけていく。

《討議の柱》 子どもと地域をつなぐ活動をどうすればよいか。

大野市上庄中学校 P T A 会長 山崎 勝彦 氏

木本地区では、3月に神社で団子まきをする行事がある。前日に大人たちで団子を作り、翌日、大人も子どももみんなで団子を拾う。みんなが楽しんでいる。シバザクラの植栽は、私の地区でも取り組んでいる。P T A を巻き込むと子どもが動くことがよく分かったので、今後の参考にしたい。





福井県幼・小・中P T A活動研修会

嶺南地区

平成26年6月28日(土)

きらめきみなと館

敦賀スタンダードに基づくPTA活動

～地域を愛する子どもたちを育てるために～

敦賀市立松原小学校父母師会

1 はじめに

(1) 敦賀市の紹介

敦賀市は、福井県の中央に位置し、北に敦賀湾、他の三方は山がっらなり平野部を取り囲んでおり、人口は67,972人である。松原小学校は、敦賀市のほぼ中心部、海沿いに位置する。



(2) 学校紹介

松原小学校は、日本三大松原の一つ、気比の松原に隣接する小学校で、校舎の窓からは、名勝・気比の松原と敦賀湾が一望でき、風向明媚なたいへん自然にめぐまれた場所に立地している。



児童数は全校生徒合わせて463名が本年度在籍しており、父母師会の会員数は352名である。

学校教育目標が、伸びる子・強い子・明るい子であり、松原小学校の児童は、海に近い学校の子どもたちという事で、「うみのこ」と呼ばれている。



2 父母師会の活動

(1) 見守り隊の活動

地域のみなさんを中心にした、非常に重要な活動であり、毎日子どもたちの登下校時に、通学路の横断歩道及び交差点などに立ち、子どもたちの安全を見守り、指導して下さっている。



【児童との対面式の様子】

(2) 各委員会の活動

①保健・文化委員会

保健・文化委員会では給食試食会を行っており、主に一年生の保護者を対象に、子どもたちが毎日いただいている給食を試食し、地産地消の話や普段話すことができない栄養士さんとの対話の場を設けている。



【給食試食会】

②体育委員会

体育委員会を中心に実施している、敦賀市PTA連合会主催ソフトバレーボール大会は、父母師会会員の運動不足の解消並びに会員同士の親睦の場となっている。



【ソフトバレーボール大会】

③総務委員会

総務委員会では、年1回校外の清掃活動を中心に奉仕作業を行っており、年2回の懇親会等の企画・運営などを実施している。

④広報委員会

広報委員会では、「文集まつばら」という機関紙を編集発行しており、今年で第60号となり、めでたく60周年を迎えることになった。昭和30年頃から発行している事になり、非常に歴史ある活動で、今年は60周年記念号の発行を計画中である。

⑤体育大会（全委員会）

毎年6月に実施する体育大会では全委員会が協力して、父母師会競技の企画・参加、前日の体育大会の準備から、当日の安全パトロールや後片付けまで、先生方や子どもたちと共に協力し実施している。



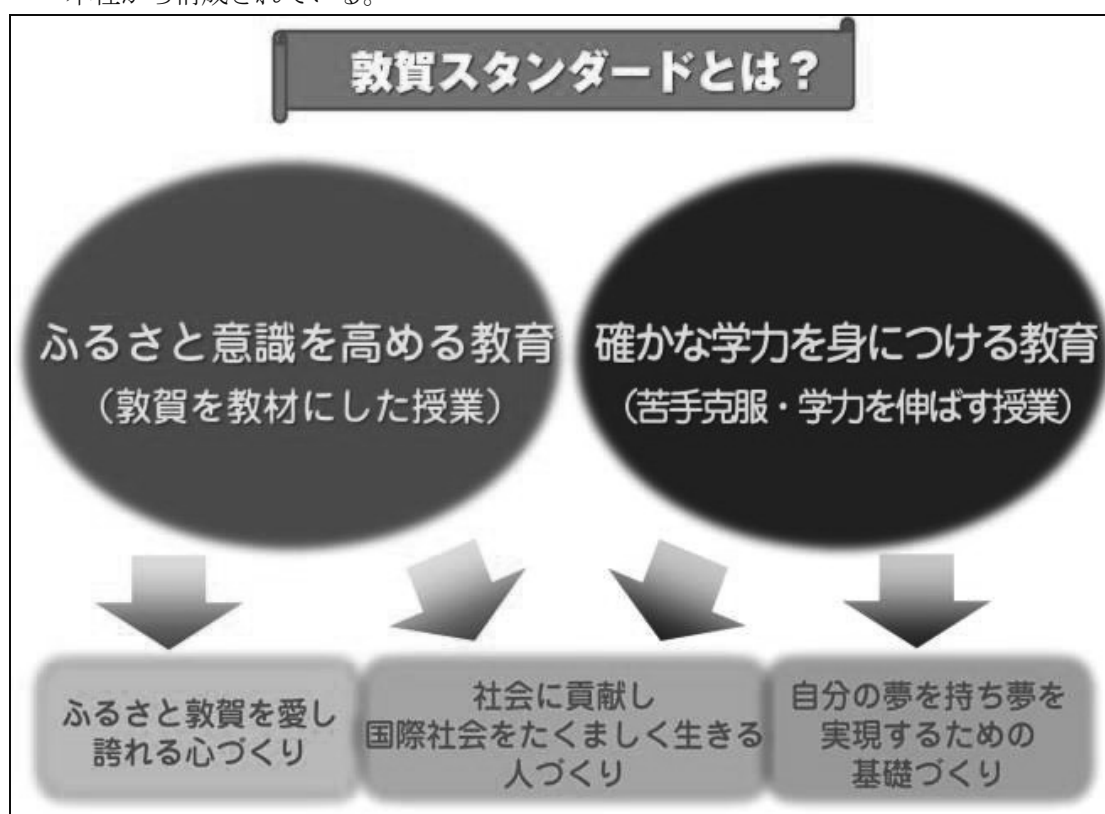
【体育大会】

3 敦賀スタンダード

(1) 敦賀スタンダードとは

敦賀市では、市内の全小中学校において「敦賀スタンダードカリキュラム」に基づく授業を実施している。

その基本方針には、ふるさと意識を高める教育と、確かな学力を身につける教育の二本柱から構成されている。



本教育理念は、ふるさと敦賀を愛し誇れる心づくり、社会に貢献し国際社会をたくましく生きる人づくり、自分の夢を持ち、夢を実現する為の基礎づくりを目標とした教育理念である。

松原小学校では、敦賀スタンダードの一つの柱である、ふるさと意識を高める教育(敦賀を教材にした授業)を取り入れた田んぼの学校という校外学習を実施している。

(2) 田んぼの学校

田んぼの学校は5年生を対象に稲作の体験をするものであり、毎年敦賀市原地区で行われ、農家のボランティアのみなさんに教えていただきながら、春5月に田植え、秋9月に稲刈り、はさ掛けなど実施することで、1年を通して教室では経験することができない貴重な体験をすることができた。




【田植えの様子】

4 親子のつどい

父母師会活動の中に保護者、児童、先生方と合同で実施する「親子のつどい」という活動がある。各学年の学級委員さんが中心となり、独自にその学年に合った催し物を行い、親子のふれあいや保護者同士の親睦を深めるものである。

親子の集い

1年生 ドッジボール大会と プチタイムカプセル収納式	4年生 新聞紙でエコバッグ作り
2年生 ドッジボール大会と 「お店屋さん」	5年生 おにぎり作りと 大なわ大会
3年生 親子でエクササイズ	6年生 コサージュ作りと 大なわ大会



豚汁作りをしていただいた。

その後、子どもたち、保護者、先生方みんなでおにぎり作りにチャレンジし、自分で収穫したお米で、自分の思い思いの大きさや形のおにぎりをにぎった。そのあと、ごはんの歌をみんなで合唱し、試食となった。短い時間だったが、参加者のみなさんがそれぞれ親睦を深め、非常に楽しく美味

5年生の親子のつどいは田んぼの学校で収穫したお米を使ってのおにぎりや豚汁作り、併せて大縄跳び大会を企画した。

学年委員さんを中心に、まず前半は、子ども達が体育館で大縄跳び大会、クラス対抗で保護者や先生方と一緒に飛んだ回数を競い合い、親睦を深めた。

その間に学級委員さんとお手伝い下さった保護者の方々と一緒に、お米の炊飯と



しい親子のつどいになった。

親子のつどい終了後に、学級委員さんに提出していただいた報告書から、当日多くの方に参加頂き、大好評であったとの報告があり、他学年の学級委員さんのよき参考として役立たせてもらっている。

5 まとめ

(1) 松原小父母師会地域密着学校支援

松原小学校父母師会の地域密着学校支援は、子どもたちを中心とした、学校・家庭・地域のサイクルを保ち、そのサイクルの潤滑油として、保護者同士や地域とのつながりを深めることにより、子どもたちが安全、安心に学び、育める環境作りをサポートする事を目標としている。

(2) 成果

これらの活動を通して、子どもたちは、敦賀スタンダードに沿った「ふるさと」をテーマに子ども達自らが体験することにより、教室だけでは味わえない驚きや、感動を体験できた。

保護者や先生は、「ふるさと」を愛する子どもを育てる事を通し、自らも共鳴し、「ふるさと」の良さを再認識できた。

地域においては、地域で子ども達を見守り、育てるといった、意識醸成につながった。

6 おわりに

上記で述べた活動を通し、家庭・学校・地域と協力し、地域に根付いた、より良い成長の場を子ども達に提供していきたいと考える。

引続き、地域の皆様方の声を大切にしながら、敦賀で育つ子どもたちが、各々すばらしい夢を持ち、充実した学べる環境を提供できるよう、松原小学校父母師会全員で見守り続けたい。

【質疑応答と意見交換】 発表校 敦賀市立松原小学校父母師会

質問 PTA活動を運営していく上で、不便なことや困難であることもあるかと思いますが、どんなことがありますか。

回答 少子化及び共働き等、保護者も忙しく、PTAの役員等をボランティアでやって頂ける方が年々少なくなってきており、人材を確保するのに苦慮しています。松原小父母師会は、父母師会活動に参加頂けるよう、子ども達と一緒に、保護者同士が楽しめる行事を企画しております。本活動が保護者間の繋がりとなるツールになればよいと考え、今後も引き継ぎ、精力的に活動していこうと思います。

敦賀市立松陵中学校 P T A 活動報告

敦賀市立松陵中学校 P T A

はじめに

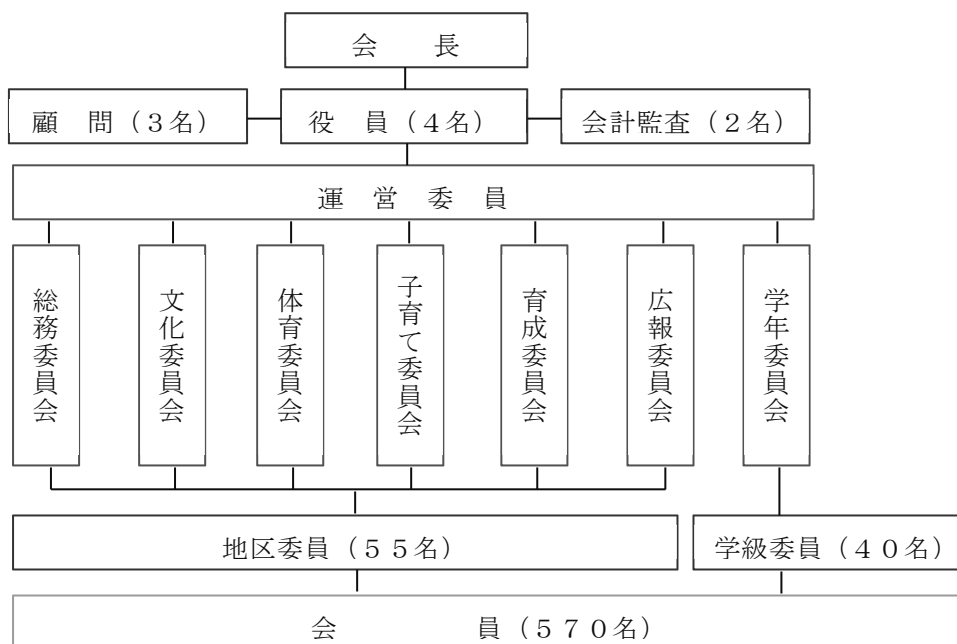
平成26年6月、P T A活動地区別研修会嶺南ブロックにて、松陵中学校 P T Aの活動報告をさせていただきました。発表を通して感じたことは、私たちが当たり前のように行ってきた活動が、他校から見れば新鮮なものとして映り、評価に値するものだという事を再発見させられたことです。当日は100名程度の参加であったかと思いますが、本稿を通して、さらに広く皆様に情報を提供することができれば幸いです。

1 松陵中学校とは

- (1) 校 是
「明るい松陵」
- (2) 学校教育目標
「夢を持ち、人間性豊かで、自ら未来を切り拓く生徒の育成」
- (3) 生徒数
580名
- (4) P T A会員数
570名(内 教員41名)



2 P T A運営組織図



3 運営委員の活動内容

(1) 総務委員会の活動

① 活動概要

活動テーマとして「“つながり”“協力”“笑顔”でがんばろう」を掲げ、会員相互の交流はもちろんのこと、さらに地域の方々へと広く交流の場を広げていくことを目的として活動しています。

② 活動内容

(ア) 地区夏祭りへの参加

毎年夏に行われている地区の夜祭りに、保護者と先生方が共同で、出店という形で参加しています。今年はおろしそばを提供しました。

地区の方々との交流を図るとともに、保護者と先生方の親睦を深めることにも一役買っています。



(イ) お別れ会の開催

毎年2月には、保護者と先生方合同のお別れ会を開催しています。

(2) 文化委員会の活動

① 活動概要

活動テーマとして「ゆとりの時間を大切に」を掲げ、会員の皆さんに文化的な催し物を通して、交流を深めることを目的として活動しています。

② 活動内容

(ア) ゆとりサークルの開催

保護者同士の交流の場の提供に役立っています。トールペイント教室やクリスマスツリー作り、正月飾り作りなど、多種多様なサークルを開催し、好評を得ています。



(3) 体育委員会の活動

① 活動概要

活動テーマとして「明るく楽しく体力づくり」を掲げ、スポーツを通して会員相互の親睦を図ることを目的として活動しています。

② 活動内容

(ア) 敦賀市PTA対抗ソフトバレーボール大会への参加

敦賀市PTA連合会主催の市内単P対抗ソフトバレーボール大会に、毎年参加しています。優勝に向けての約1ヶ月間に及ぶ練習を通して、会員相互の太い絆が生まれていきます。

(イ) クラス対抗ソフトバレーボール大会の開催

クラス単位の保護者と担任の先生との交流を図るため、毎年開催されています。交流を目的としながらも、やはりそこは勝敗の決まる世界で、どうしても熱くなってしまうがちですが、終わってみれば皆さん声をそろえて楽しかったと言っていただき、松陵中学校の恒例行事として定着しつつあります。



(4) 子育て委員会の活動

① 活動概要

活動テーマとして「笑顔で子育て」を掲げ、食育を通して会員相互の交流と情報交換を目的として活動しています。

② 活動内容

(ア) そば打ち教室の開催

(イ) 給食試食会の開催

保護者を対象とした給食試食会を開催しています。給食に素材を提供していただいている農家の方々との情報交換もあり、給食に対する知識と理解を深めていただく場として好評を得ています。



(5) 育成委員会の活動

① 活動概要

活動テーマとして「元気なあいさつ 明るい松陵」を掲げ、生徒の健全育成を目的として活動しています。

② 活動内容

(ア) おはようさん運動

月に2回の頻度で、保護者と生徒会、先生方が一緒になって、朝の挨拶運動を展開しています。



(イ) ふれあいパトロールの実施

敦賀市民にとって欠かすことのできない行事の一つ敦賀祭りにおける夜間パトロールを、先生方と合同で実施しています。

(ウ) 講演会の開催

生徒たちが、これから先生きていく中でのヒントになれば、きっかけづくりになればと、毎年講演会を開催しています。昨年は元WBA王者 清水智信氏にあきらめないことの大切さを、今年は鯖江市出身の兄弟バンド「一途」の皆さんに、命の大切さを伝えていただきました。

(6) 広報委員会の活動

① 活動概要

活動テーマとして「思いやりのある みんなの広報」を掲げ、会員の皆さんに向けて様々な情報を発信しています。

② 活動内容

(ア) 年2回の広報誌発行

6月には、先生方の紹介記事をメイン特集として、新たに動き出した松陵中学校の様子を広く配信し、3月には、卒業文集をメインに、生徒たちの思いを伝える場を提供しています。

おわりに

私たち松陵中学校PTAの活動は、必ずしも派手さを追求しておりません。背伸びすることなく、各自が今できる範囲内での活動をお願いしています。これからも生徒、先生、保護者の和を何よりも第一と捉え、淡々と息の長い活動を続けていきたいと考えております。

【質疑応答と意見交換】 発表校 敦賀市立松陵中学校 P T A

高浜町立和田小学校 P T A

- 質問 7 つもの委員会があり、それぞれ素晴らしい活動をしているが、その中からやって良かった、人気があった活動は何か。
- 回答 クラス対抗ソフトバレーは、人集めは大変だが、親と先生とのコミュニケーションが取れるので、参加した保護者からの評判は良かった。
- 質問 和田小学校は親子の活動を大切にしている、『親が変われば子供も変わる』という考えで P T A 活動を行っている。これからやっていこうと思う活動は？
- 回答 学年委員を中心に親子の集いをやりたいが、なかなか出来ないのが現状である。子育て委員会のゆとりサークルを年 2 回から 1 回にし、内容の濃い活動を行って行こうと思っている。

敦賀市立角鹿中学校 P T A

- 質問 松陵中学校は気比の松原が近いのにも関わらず、海に因んだ行事が何もない。中 3 の子供たちをサポートし、5 校の中学校合同で何か行事が出来たら良いのではないかな。もう一步踏み込み、海の怖さや素晴らしさを教える事が出来ないか。
- 回答 確かに海との関わりのある活動がなく、松原清掃くらいだったが、前向きに検討したい。貴重なご意見ありがとうございました。

◇討議の柱：『P T A 会員相互のコミュニケーションを活性化させる取り組み』について

若狭町立三方小学校 P T A

- 意見 松陵中のような大規模中学校と、私たちのような小規模小学校とは違うと思うが、役職の掛け持ちもあり、ほとんどの方が役を持たないと回らない状況。しかし、年 2 回の奉仕活動は 100% の参加率で、おじいちゃん、おばあちゃんとの地域の繋がりがあり、命の大切さを教えるため、『ゆりかご米』という田植えから、稲刈り、販売を行っている。
- 回答 私たちもおじいちゃん、おばあちゃんを誘い込んで繋がりを持って行きたいと思う。

嶺南ブロック長

- 意見 役員をしている人だけが P T A だと思っている人が多い。保護者 = P T A という認識がなく、私は役員じゃないから参加しないという考えが根本にある。
- 回答 最初のきっかけで、P T A がずっと入って来られるような活動を考えて行きたいと思う。



福井県幼・小・中PTA活動研修会

丹南地区

平成26年6月29日(日)

鯖江市文化センター

すべての地域住民と子どもたちの絆をつなぐ活動

～少子化・高齢化・人口減少を前向きにとらえる～

鯖江市河和田小学校 P T A

はじめに

(1) 河和田（かわだ）地区の概要

河和田地区は鯖江市の東部の緑豊かで清流に恵まれた山間に位置し、鯛に似た地形をしており直線距離で約6 km に渡り、鯖江つつじマラソンでのハーフコースではこの河和田地区の町を駆け抜けます。自然に溢れ、清流により現在もおしどりが生息しており平成24年11月4日のNHKの「ダーウィンが来た！」でも取りあげられています。



河和田地区の産業は鯖江市の基幹産業でもある漆器業と眼鏡業です。この不況下においても地区住民の心は折れず、知恵を絞り産業の継承に心血を注いでいます。そして、他県や他地区から職人を目指し移住して来た若者たちもいます。



ただ、そんな河和田地区にとって悲惨な出来事がありました。それが平成16年7月18日の福井豪雨でした。



そして、その数年後から河和田地区全体の人口は年間で約100人前後の流出があり、水害前には約6,000人であった人口も、平成25年には約4,500人に減少してしまったのです。

(2) 河和田小学校の概要

前記のように河和田小学校の児童数は、福井豪雨前にも多少の減少はありましたが、平成21年までは280人前後で維持していました。ところが、平成22年以降は、年間で約20人ずつ減少し、平成26年4月の時点で、194名になりました。5年間で約100人の児童数が減少してしまうという状況になったのです。そして、この人口減少や児童数の減少が、PTA活動にも幾つかの影響を与えることになりました。



1 PTAの概要

(1) PTAの問題点

河和田小学校の保護者の皆さんのPTA活動への参加意識はかなり高いという前提のもと、

- ①児童生徒数の減少が著しく、同じ保護者が繰り返し役員を務めざるを得ない。
- ②自営業の減少、共働きの増加により、PTA役員を引き受けたくても断らざるを得ない保護者が増加。
- ③少子化・高齢化・人口減少が進む中で現在のPTA活動を維持していけるか。

などの問題点が浮かび上がって来ています。

(2) PTAの組織

河和田地区は13地区に分けられており、各々の各地区の保護者代表が代議委員や総務委員として選出され総務委員会（厚生部会、育成部会、教養部会、母親部会の4専門部会からなる）、各学年の保護者代表が学年総務委員として活動しています。

(3) PTAの活動

PTA主催の活動は、先に上げた4つの専門部会が、主として以下の活動をしています。

- 厚生部会 1 花木販売 2 体育大会でのバザー販売 3 スキー用品リサイクルおよび販売
- 育成部会 1 親子登山 2 交通安全教室 3 校外補導 4 市P連ソフトバレーボール
- 教養部会 1 蒔絵教室 2 ゆきのわ新聞（年2回発行）
- 母親部会 1 給食試食会 2 リサイクル（制服等回収と販売） 3 コサージュづくり

上記の中で、河和田小学校PTAの特色ある活動は、花木販売、親子登山、蒔絵教室と考えられますので、まずそれについて簡単に説明します。

【花木販売】厚生部会が主体 平成26年4月19日（土）開催
約30年以上続く行事

（目的）

- ① P T A活動資金の調達
- ② 子どもたちにも可能な限り参加してもらい、親子で協力しながら社会活動に勤しむことの楽しさをわかってもらう
- ③ 花木を売るだけではなく、買う地域の人々の喜びも感じてもらう。（立場の違う相手との理解を自然に深める。）
- ④ 販売を通して、地域住民とのより深いコミュニケーションの場とする

（成果）

子どもたちは家族と一緒に花木を並べたり、地域の人々と笑顔で接したりする楽しさを感じていた。

（課題）

児童数が1～2名の地区もあり、今後のさらなる少子化を考えると、事前に対策を練る必要がある。



【親子登山】育成部会が主体 平成26年9月20日（土）開催 場所：文殊山
約20年以上続く行事

（目的）

- ① 自然の厳しさと楽しさを体感すること。
- ② 親子や友人たちとのさらなるふれあいを持つ。
- ③ 苦しい時もみんなで助け合い、笑顔で歩き続けることで意外な喜びが得られるという体験にチャレンジをする。

（成果）

- ① 子どもたちは、家族とともに声をかけたり、かけられたりするコミュニケーションの大切さを体感できた。
- ② 苦しい時も笑顔で声を出して行動することで、喜びを得られることもあることが体験できた。

（課題）

- ① 気候に恵まれたが、悪天候の時を考慮し、安全面を十分に検討しておく必要がある。
- ② 高学年の参加が少ない。



【蒔絵教室】 教養部会が主体 平成26年7月5日（土）開催

約20年以上続く行事で、地元の越前漆器協同組合・軒下工房の協力のもと行われる。

(目的)

- ①地元の産業そして鯖江市の産業でもある漆器に関わることで、地場産業の大切さやものづくりの大切さを学ぶ。
- ②指導者である地元の職人さんたちとふれあうことで顔の見えるコミュニケーションを学ぶ。
- ③子どもたちの作品は鯖江市の平成26年度事業計画であるかわだモノづくり&アートフェスタで展示されました。(9月13日、14日、20日、21日開催)
- ④より多くの方に作品を見て頂くことで子どもたちのモノづくりへの意欲を高め、さらに地元の職人さんたちとの交流を楽しんでもらえました。



そして、もう一つPTAの主催ではありませんが共催である大事な行事があります。

【ふれあいオープンスクール】 11月8日（土）開催

この行事は河和田小学校・東陽中学校・河和田地区青少年育成協議会・河和田町公民館そして河和田小学校PTAが共催して開催しています。内容はまず歌と演奏を約1時間、以下の内容を保護者の皆さんと楽しみます。



- ・6年児童による連合音楽会発表曲の歌
- ・全校児童による歌
- ・東陽中学校吹奏楽部による演奏
- ・ジョイントコーラス



そしてその後、地元で活躍されている方々や東陽中学校の生徒さんにご指導に来て頂き12種類の教室のなかから児童が選択したものを参加を希望された保護者の皆さんと体験するというものです。

12種類の教室は以下の通りです。

- ①冬鳥観察と生き物にやさしい施設の見学
- ②郷土料理
- ③めざせ！マンガ家
- ④押し花で楽しもう
- ⑤ネイチャークラフト
- ⑥布を使った草履作り
- ⑦楽しい楽器体験
- ⑧発電体験 もっと知ろう！電気のこと
- ⑨プリザーブドフラワーアレンジメント教室
- ⑩絵手紙教室
- ⑪ニュースポーツ教室
- ⑫沈金教室

目的としては、「学校の教育機能・施設を積極的に活用し、子どもたちが世代を越えて仲間と楽しく学び合える活動の場を広げる。」「学校と地域社会が互いにつながりを強め、共に総合的な教育力の活性化を図る。」という少し難しいものですが、結果として児童たちがすばらしい集中力と笑顔を見せる行事となっています。ちなみに、この行事も今年で14回目を迎えました。

(4) その他のPTA活動

以上の4つの行事以外にも、漆器まつり、うるしの里まつり、スキー教室（九頭竜スキー場）などがあります。



2 まとめ

河和田小学校のPTA活動は現在も意欲的かつ積極的に行われており、担当外の保護者の協力も比較的しっかりと得られています。また、地域住民との関わりも伝統的にしっかりとした絆があります。少子化は日本全体の問題です。しかし、国策としての解決を待ちながらも、河和田小学校の伝統あるPTA活動を維持し、かつ少子化、高齢化、人口減少を地域住民と子どもたちとの関係をさらに深めるための絶好の機会と受け止め、今を生きる子どもたちが明るく、楽しくかつ将来この地域に生まれ育ち良かったと思ってもらえるような前向きなPTA活動をしていきたいと考えています。

【質疑応答と意見交換】 発表校 鯖江市河和田小学校PTA

鯖江市鳥羽小学校PTA会長 岩原 義明 氏

質問 今回、河和田小学校が地域のみなさんと連携をとり多くの活動をしていることを聞いて、私たちも地域のみなさんと連携を取りながら活動していきたいと思った。その連携を取りあう上で重要だと思われること、そして維持するために大事だと思われることがあったら教えてほしい。

回答 申し訳ない回答だが、私たちの活動は、諸先輩方が築き上げて下さったものをそのまま引き継いだもので、あまり工夫したり苦労したりしていない。人口が減る中で少しの変化をつけているだけだ。昔からPTAと地域のみなさんとの繋がりを重要視してきた河和田地区の伝統に感謝したい。(性急に大きく変化させないことの大切さも述べたかった。)

池田小学校PTA副会長 松井 靖明 氏

意見 池田よりも遥かに人口減少が進んでいる河和田地区で、素晴らしい取り組みをされていると思ったのだが、池田も現在85人という少ない児童数であり、PTA行事をこなすだけで精一杯というのが現状だ。さらに、今立郡PTA連合会(池田幼稚園、池田小学校、池田中学校、武生高校池田分校、園児児童生徒数 約230人)で活動を行っているが、それでも活動を広げるのは困難。幸い、池田はボランティア活動が盛んで、むしろPTAがそのボランティア活動に甘えている気がする。なんとか、そのボランティア活動をして下さっている方々に恩返しができないかと考えており、河和田のPTAの方々のような気持ちがようやく芽生えてきたと思っている。これからも、河和田と同じ悩みを持つ立場として、いろんな意見や情報交換をしていきたい。

ボランティア活動の継続とさらなる展開

～やりがいを実感できる活動への展開～

越前市武生第三中学校PTA

はじめに

武生第三中学校は、平成23年度に創立60周年を迎えた。平成26年度は、1年生109名、2年生117名、3年生130名、全学年356名の生徒が学んでおり、特色ある教育活動の一環として、学校生活全体の中で福祉の意識を育む教育に力を注いでいる。

1 武生三中PTAの主な活動

- 6月 村国山清掃ボランティア
- 6月 親睦球技大会【保体部】
- 6月 健康体操【四季部】
- 7月 保護者対象研修会【生活部】
- 8月 資源回収【生活部】
- 9月 学校祭喫茶店【四季部】
- 11月 菊花マラソンボランティア
- 12月 公民館清掃ボランティア
- 通年 広報誌発行（年4回）【文化教養部】

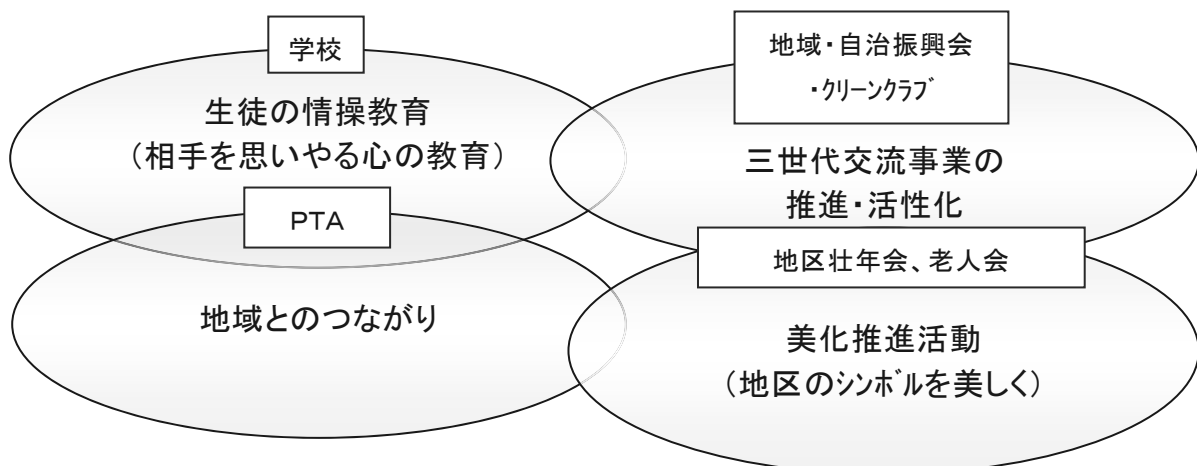
2 PTAとしての関わり方

学校教育の一環である、ボランティア活動をサポートする。

3 ボランティア活動紹介

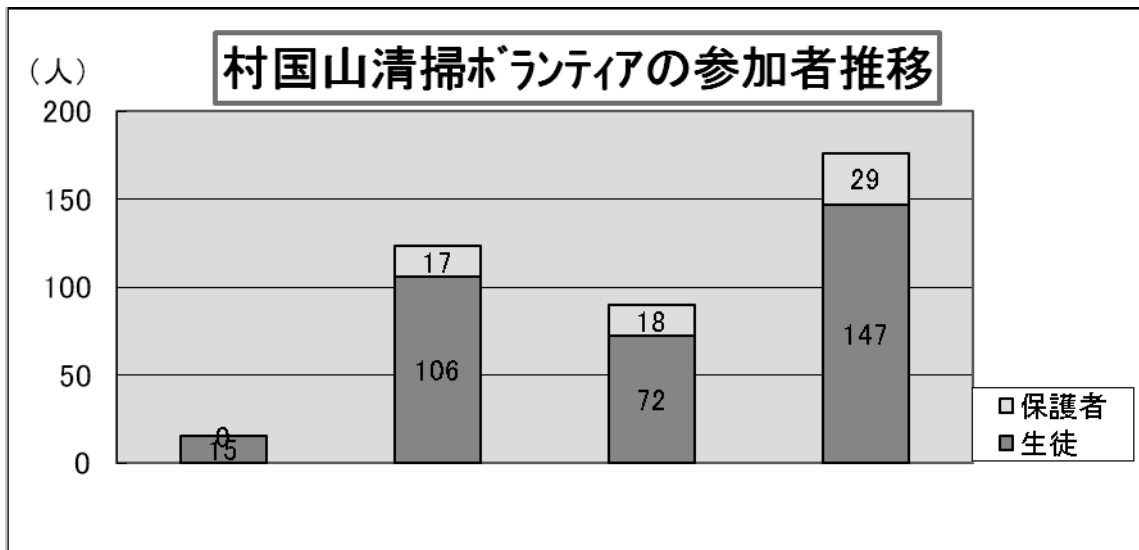
(1) 村国山清掃ボランティア

①関わる団体



②村国山清掃ボランティアの参加推移

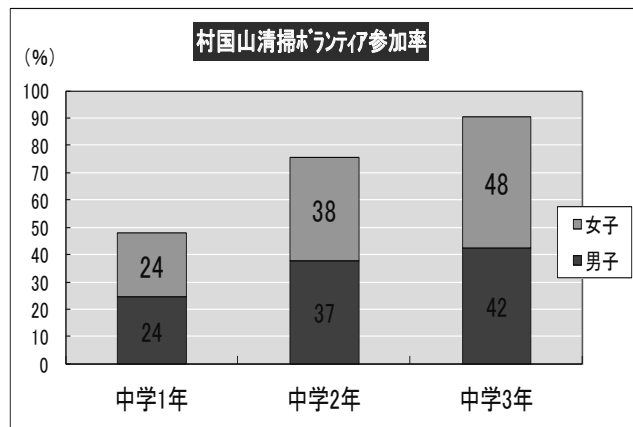
平成23年から三世代交流村国山清掃活動として始まり、生徒参加者は増加傾向にある。しかし、保護者の参加が少ない。



③平成25年度の参加比率

学年が低いうちは意識がそれほど高くないが、学年が上がるにつれて増加傾向にあり、ボランティアへの意識が植えつけられている。

参加者：213名



④村国山清掃のボランティア内容紹介

- (ア) 村国山参道、その周辺ゴミ拾い
- (イ) 夫婦池の清掃と整備
- (ウ) クヌギ広場の草刈り

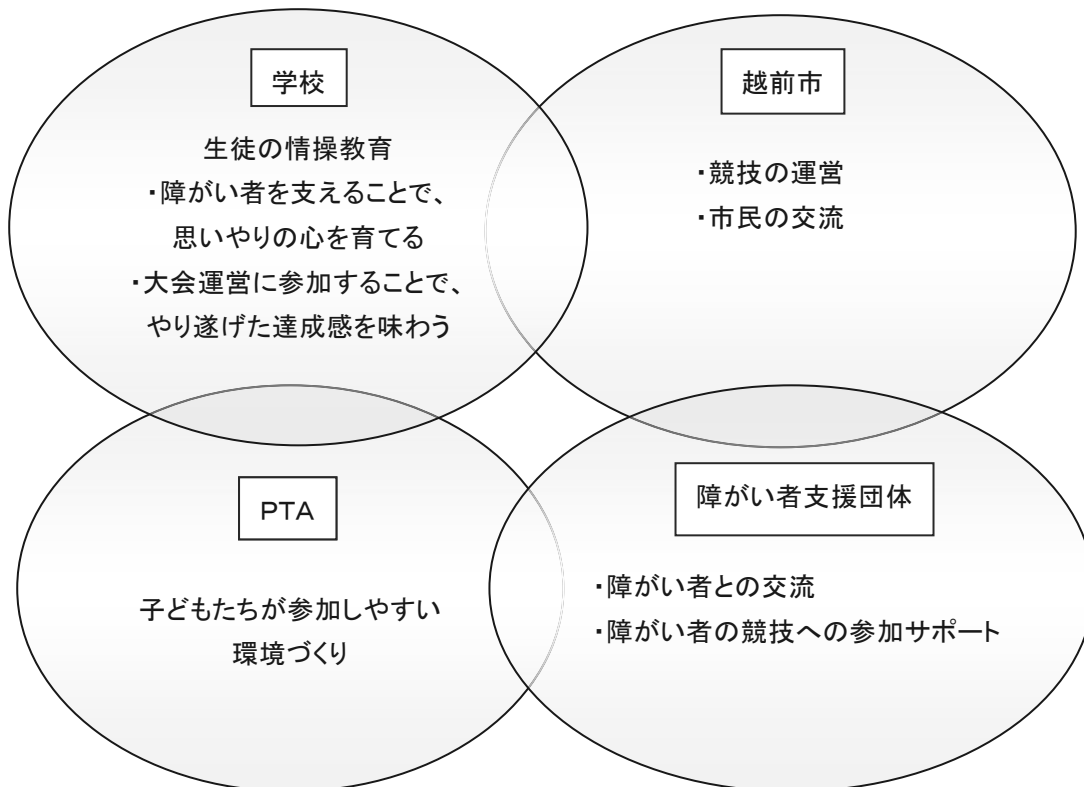


⑤生徒へのアンケート結果・感想

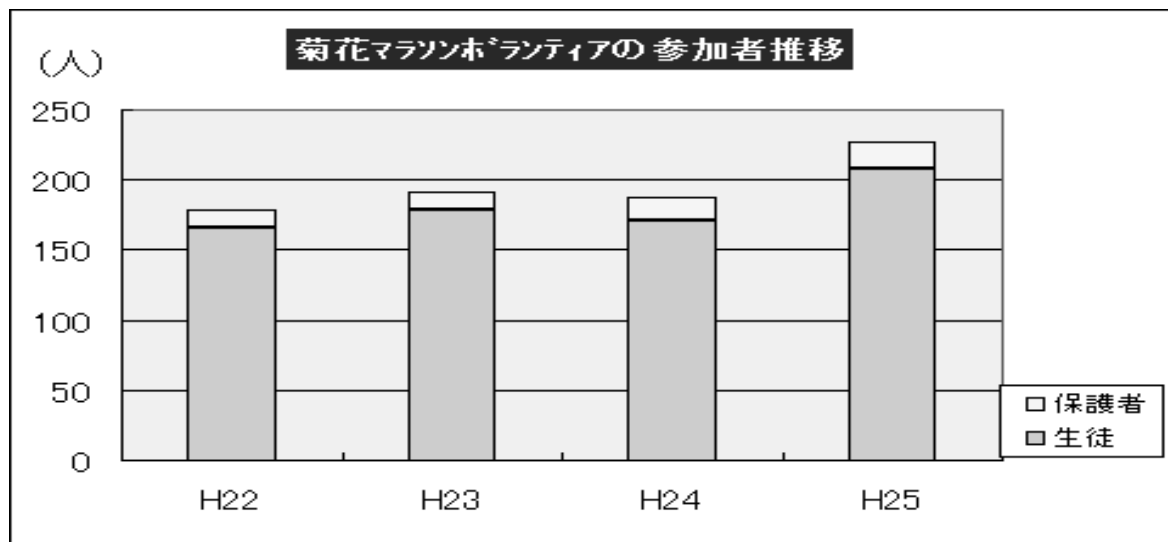
- (ア) ボランティアへの関心度
- ・ 非常に関心がある : 31%
 - ・ ある程度感心がある : 61%
- ⇒ 92%の人が関心を示している
- (イ) 参加のきっかけは?
- ・ 地域のために、みんなで協力したい : 81名
 - ・ 社会のために、役に立ちたい : 69名
 - ・ ふる里のシボルを、綺麗にしたい : 66名
- (ウ) 参加して良かったところ
- ・ 充実感や達成感が味わえた : 86名
 - ・ ボランティアの大切さがわかった : 83名
 - ・ 活動が、楽しかった : 70名
 - ・ 村国山が綺麗になった : 56名

(2) 菊花マラソン伴走・運営活動ボランティア

①関わる団体



②菊花マラソンボランティアの参加推移
近年、参加者は増加している。



③菊花マラソンボランティアの持ち場紹介

(ア) 伴走：ブラインドランナーの伴走
(1.5km～3.0km/人、駅伝形式)



(イ) 応援：沿道での応援、伴走者の荷物管理



(ウ) 運営：菊花マラソン全体の運営補助
・ゴール地点で完走賞
・参加賞受渡し、チップ回収

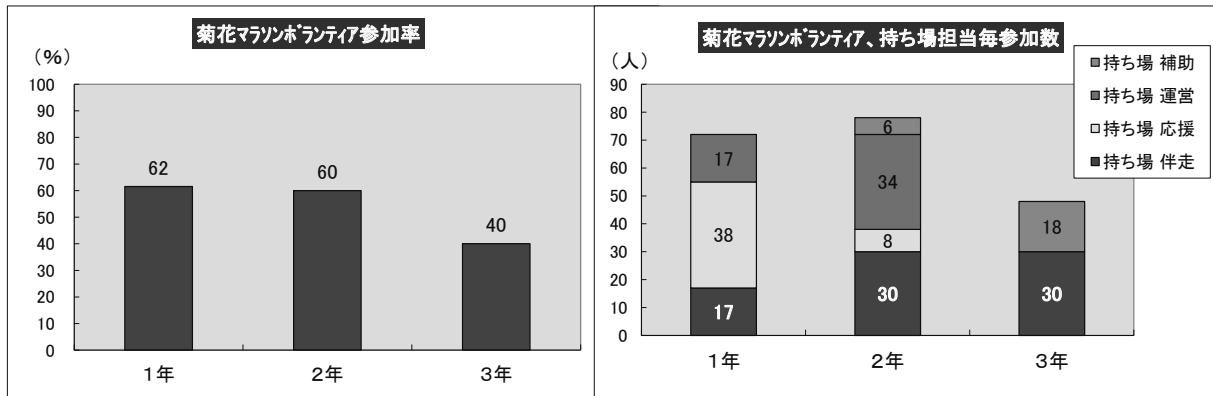
(エ) ランナー補助：当日の朝から出発前と
ゴール後にブラインド
ランナーの誘導・荷物管理



(オ) P T A : 生徒の運営サポート

④平成25年度 菊花マラソン参加状況

- ・2年生以上は、伴走ボランティアが主体になっているため、参加の意識が高い
- ・運営ボランティア（応援を含む）に参加することで、1年生の参加を呼びかけ、来年度の伴走ボランティアにつなげている。



⑤生徒・保護者（PTA）の感想・意見

(ア) 生徒

- ・走っている人に勇気を与えられた
- ・前のじぶんより心が軽くなった
- ・協力することの大切さを学んだ
- ・目の見えない人のことがよくわかった
- ・ボランティアを通して成長することができた
- ・ボランティアの大切さを知った
- ・ランナーと一つになれた
- ・ボランティアの楽しさを知って満足感を味わった

(イ) 保護者（PTA）

- ・伴走ボランティアをしている子ども達がゴールをしてくる姿を見て、涙が出そうになり感動した
- ・ランナーの方の高揚感が私にも伝わり、走ったかのような臨場感が生まれた
- ・多くの生徒が参加している事が知れて嬉しかった

4 ボランティア活動を通じての成果と今後の課題

(1) 成果

①生徒の意識調査より

- ・「地域」の一員としての自覚が芽生えた。 ・「ボランティアの大切さがわかった」
- ・「村国山が綺麗になった」・・・etc

②活動を通じた達成感

・「充実感や達成感が味わえた」 ・「活動が楽しかった」・・・e t c

③P T Aの意識調査より

・「生徒のサポートを中心にやってきたが、自分自身の為にもなっている事がわかった」

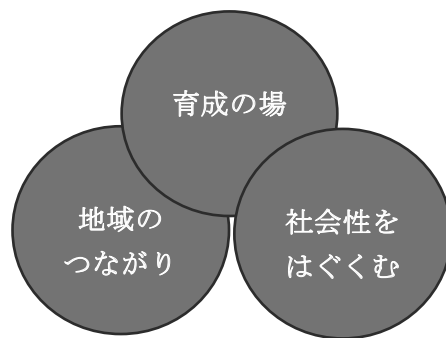
(2) 今後の課題・取り組み

★生徒と地域を繋げる身近な大人として関わる。

- ① 生徒の活動にP T Aが関わる場を増やす。
(ア) 「赤ちゃんだっこ体験」(今年度)
- ② 生徒に比べて保護者の参加率が低い。
(ア) より多くの保護者に参加を促す。

終わりに

ボランティアを通じて、より一層のP T A活動の活性化を図っていきたい。



【質疑応答と意見交換】 発表校 武生第三中学校 P T A

鯖江市中央中学校 P T A 高嶋氏

質問 当校は生徒の数が 1,000 人以上いて保護者も多く、学校としてもボランティアも積極的で特に公民館行事にボランティアとして参加する子どもたちが多い。その中で感じることは地区（公民館など）と学校の連携はあっても P T A としての連携は薄いとを感じる。三中が具体的に取り組んでいることがあれば教えてほしい。

回答 特に具体的に取り組んでいることをすぐに思い浮かべることはできないが、公民館の運営協議会や自治振興会の青少年育成部に参加することで地域の中で P T A の声を取り入れやすい環境を用意してもらっている。また、インフォーマルな部分では地区壮年会や体協などで活動している保護者も多い。

質問 中学校としてお願いをしていることがあれば教えてほしい。

回答 現状としては中学校からお願いすることよりも、保育園での絵本読み聞かせや児童館での吹奏楽演奏など地域からの要請に応じていることの方が多い。中学校からのお願いよりも地域の声に応えることで地域とのつながりを深めている。

鯖江市惜陰小学校 P T A 坂井氏

意見 小学校レベルのボランティアでいうと保護者で朝の登校時の交通事故防止啓発活動をしている。何らかのボランティアにつながればいいと思い輪を広げている。

回答 中学校としては徒歩・自転車通学がある。

校区の小学校では見守り隊といって高齢者の方が中心に登下校の事故予防ボランティアを行っている。中学校では見守り隊の制度はないが、その方とボランティア活動の場で再び出会うこともあり、見ず知らずの人とボランティアをするよりは、ボランティア活動の場がより身近になる。このことが生徒のボランティア活動の継続性に関係しているのかもしれない。坂井会長の話を聞いてそのように感じた。

司会者（鯖江市 P T A 連合会総務委員長） 中村氏

意見 出合いや発展、感動など精神的な面で得るものが多いと感じた。



平成26年度 福井県高等学校PTA指導者地区別研修会 実施状況一覧

地区・期日・会場	講演内容・講師	発表校
<p>【 嶺北地区 】 9月13日（土） 福井県生活学習館</p>	<p>講演 『高校生とネット社会 ～ネットトラブルから 子どもたちを守るために～』 講 師 NTTドコモケータイ安全教室</p>	<p>福井県立丸岡高等学校PTA 福井県立武生工業高等学校PTA</p>
<p>【 嶺南地区 】 9月20日（土） 県立三方青年の家</p>	<p>事務局 後藤 亜希子 氏</p>	<p>福井県立敦賀工業高等学校PTA</p>



福井県高等学校 P T A 指導者研修会

嶺北地区

平成26年9月13日(土)

福井県生活学習館

豊かな心を育む生徒指導をめざして

～アットホーム、どうせするなら楽しく、なかよく～

福井県立丸岡高等学校 P T A

はじめに

丸岡高校は、坂井市丸岡町の東に位置し、^{あたごやま}愛宕山(篠岡)と呼ばれる小高い丘に立つ。ここからは丸岡町が一望でき、丸岡城は手が届くような近くに見える。

丸岡高校の歴史は深く、1913年に丸岡町立女子裁縫学校として開校した後、實科高等女学校、高等女学校を経て、1957年に福井県立丸岡高等学校となった。

この間、校舎は丸岡城の城山麓を2度移転したが、1974年に現在の丘に上がり、更に40年を経て昨年創立百周年を迎えた。

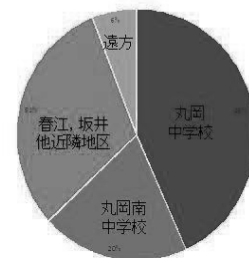
長い歴史と伝統を誇るこの丸岡高校の特筆すべきことは、「地域に密着した学校」ということである。本校へ通う生徒は、地元丸岡中学校と丸岡南中学校出身が63%、サッカー部、新体操部、剣道部の3強化部に所属し、遠方から通う生徒も少しいるが、近隣地区がほとんどを占める。また、親子3代に渡って同窓生という家庭も珍しくなく、PTAもかなりの割合で本校の同窓生である。

もう一つは、丸岡高校の教育目標が「文武両道の達成をめざす生徒の育成」ということである。前述した3つの強化部のほか、運動部・文化部ともに毎年大きな成果を上げつつ、生徒一人ひとりが自己実現を果たしている。

このように地域に密着し、文武の成果に大きな関心を寄せられている丘の上の学校で、子ども達の持てる能力を120%引き出させようとサポートを続ける私たち丸岡高校PTAの取り組みを紹介する。



丸岡高校生の出身中学校の割合



1 地域の高校として

丸岡高校は、地元密着型のメリットを最大限生かして色々な奉仕作業や行事に参加をしている。

・地域文化施設奉仕作業

毎年5月に1年生が行っている奉仕作業。地元の文化施設（長崎称念寺、中野重治文庫、高岳寺、中野重治生家）に赴き、清掃を行うなかでその歴史などを学んでいる。



地域文化施設奉仕作業

- ・七夕まつり

昨年より開催されているイベント「七夕まつり」での「ゆかたファッションショー」に、丸岡高校の生徒も参加し、丸岡が織物の町であることをアピールした。



七夕まつりへの参加

- ・サッカー部による地元小学生へのサッカー指導

坂井市は平成30年に行われる福井国体のサッカー会場になっている。そのため、今年、まるおかスポーツランドが改修され、グラウンド2面が人工芝に生まれ変わった。そのこけらおとしで丸高サッカー部による地元小学生へのサッカー指導が行われた。この小学生たちも何年か後には丸岡高校に入学し、全国選手権大会を目指し頑張ってくれることを期待している。



小学生へのサッカー指導

- ・新体操部による試技会

福井県で唯一女子新体操部がある丸岡高校は全国大会の前には必ず保護者や地元の方に演技を披露している。今年は北信越国体を勝ち抜いて、長崎国体に出場した。



新体操部による試技会

- ・科学情報部による科学実験「出前講座」

丸岡高校は丸岡町の長畝地区にある。7年前に長畝小学校PTAの担当者からの依頼で、出前講座を始めた。今では夏休みの恒例となり、小学生にも大好評となっている。



科学情報部「出前講座」

- ・放送部による「丸岡城周辺石碑マップ」の配布

今年の丸岡城のさくらまつりに、放送部の生徒が観光客に、自主制作した「丸岡城周辺の石碑マップ」を配布した。この他、放送部は丸岡観光ボランティアガイド協会から依頼された「丸岡城紹介DVD」を制作し、観光者から好評を得ている。



「丸岡城周辺石碑マップ」配布

このように、丸岡高校は地域と密着した活動を行っている。

2 丸岡高校PTAの活動

(1) PTAの組織

役員は、PTA会長1名、副会長4名、会計2名、会計監事2名で構成されている。

また委員会は、総務、生徒指導、教養、広報、母親の5つで構成され、各委員会とも充実した活動をしているが、今回は、母親委員会の活動を中心に紹介する。



A vertical organizational chart for the PTA. At the top is the President (会長). Below are four Vice Presidents (副会長). Underneath are two Accountants (会計) and two Accounting Supervisors (会計監事). At the bottom, five committees are listed in vertical bars: Mother's Committee (母親委員会), Publicity Committee (広報委員会), Education Committee (教養委員会), Student Guidance Committee (生徒指導委員会), and General Affairs Committee (総務委員会).

会長	
副会長	4名
会計	2名
会計監事	2名
母親委員会	
広報委員会	
教養委員会	
生徒指導委員会	
総務委員会	

(2) 母親委員会の活動

母親委員会は、「元気をあげよう！」を目標として活動しており、委員はすべて母親のみで構成されている。

①生徒と語る会

母親委員会の行事の一つとして、毎年6月に「生徒と語る会」を催してきた。近年は、校外から講師を招聘し生徒に「元気を与えるひととき」を提供しようと趣向を凝らして取り組んで来た。今年6月19日(木)には、日本で3本の指に入るといふ和太鼓奏者の木村優一さんをお呼びして公演を頂いた。



公演と「生徒と語る会」

講師の木村優一さんは、悩み多き高校時代を乗り越え、阪神淡路大震災をきっかけに、被災者に少しでも元気をもってもらいたいという気持ちから、和太鼓演奏活動を始めたことや、チャレンジすることの大切さを語っていただいた。



生徒の和太鼓体験

また、生徒の和太鼓体験も設けていただき、活発な質疑応答を経て、有意義な2時間を過ごすことができた。

チャレンジすることの大切さを語ってくれた木村さんからは「いろいろな人が助けてくれるので、出会いに貪欲になって欲しい」というメッセージをいただき公演は終了した。

母親委員会の「生徒と語る会」は、過去5年間下記のような活動を行ってきている。

- ・平成21年度のテーマは“食育”で「学歴と食暦～食品添加物の真実と実態～食を変えると人が変わり、学力が変わる。人が変わると家族が変わり、社会が変わり、世界が変わる!」

これをきっかけに母親委員会は食育にもめざまめ活動の幅を広げていった。

- ・平成22年度は「わが町の史跡文化財の継承に高校生ができること～名古屋おもてなし武将隊にみる～」と題して、名古屋城おもてなし武将隊によるトーク&シ



名古屋城おもてなし武将隊と

ョーを行った後、生徒と語る会で楽しいひとときを過ごした。その後、丸高生が中心となる高校生武将隊が誕生した。

- ・平成23年度は“可能性にかける青春”「青春アカペラ甲子園 ハモネプリーグにみる」と題して大阪大学のアカペラグループ「あめんぼ」によるコンサート&トークを開催した。生徒とのジョイントコンサートの後、あめんぼのメンバーと生徒の語る会が設けられ、ボイスパーカッションなどを楽しんだ。



ハモネプリーグ

- ・平成24年度は「科学実験キャラバン」活動にみるというテーマで、福井工業大学による科学実験ショーを開催した。大きな茶碗を空中に浮かばせたり、巨大空気砲から煙を発射させたりして会場は盛況だった。その後、実験室に移って不思議化学実験もを見せていただき、参加したお母さん達も身を乗り出して楽しんだ。



「科学実験キャラバン」

- ・平成25年度は、創立100周年の特別企画で、お笑い芸人のペナルティ、ワッキーこと脇田寧人氏を招いてトーク&フットベース大会を開催した。テーマは「ワッキーが語る サッカー、お笑い、そしてこれから」で、サッカー部で活躍したワッキーの高校生活や、その後苦労して芸人となり成功した話などワッキーの人生観やサッカーを通しての友情などを聴くことができた。我が校のサッカー部のみならず、多くの生徒に良い刺激になったのではないかと思う。



ワッキーとの交流

②食育「食と健康」講座

母親委員会では食育にも力を入れている。

毎年11月には本校出身でもあり、栄養士として活躍されている小林真弓さんを講師に招いて食育講演と実技講習を行っている。

なお、この事業は丸岡中学校PTAの文教委員会活動からの延長でもある。



「食と健康」講座



そば作り実技講習

そば処丸岡町ならではの活動として、そば打ち講師の高山重則先生をお招きしてのそば作りの実技講習も行っている。これも毎年の恒例行事となっている。

これと関連して、そば料理に食物部が取り組み、そば粉スイーツなるものを開発して、地元の「のうねの郷まつり」で販売を行っている。素朴でほのかな甘みが大人気となり、すぐ完売となっている。



食物部の活動

(3) その他の委員会活動

総務委員会が中心となって全委員会で行う事業に学校祭での食品バザーがある。

今年も9月の1、2、3の3日間、平日にもかかわらず多くの委員さんにお手伝いしていただいた。

1日目がカレーで、2日目は牛丼だった。残念ながらいずれも手作りではなかったものの、心をこめてごはんに盛らせていただいた。

2日間を通して販売実績は300食ほどになった。

3日目は体育祭で、飲物だけの販売だった。

この3日を通しての収益は、卒業式の当日、卒業生への花をプレゼントするのに還元している。



学校祭での食品バザー



卒業生への花贈呈

さいごに

丸岡高校の生徒は63%が丸岡町在住の生徒である。保育園、小学校から顔なじみの生徒もたくさんいる。

丸岡以外の生徒でも子どもを通じて顔なじみになることが多く、学校祭でのバザーの時などは、とても和やかな雰囲気になる。

このように、丸岡高校は、地域に密着し支えられている学校として、PTAも、アットホームな感じで仲良くわいわいと活動している。

そんな中で、子ども達が“先生やらとうちゃんたちが、うまいことやっているな”と感じて、伸び伸びと学校生活が送れれば、目標は達成できているのではないかと考えている。



丸高PTAの合い言葉



みんな仲良し

【質疑応答と意見交換】 発表校 福井県立丸岡高等学校PTA

福井商業高等学校PTA

質問 母親委員会の委員会の活動もすばらしいし、地域に密着している学校ということで運動部も文化部も活動しているところに感心しました。ところで、他の委員会の教養委員会や生徒指導委員会はどのような活動をされているのか教えてください。

回答 教養委員会は毎年1月に、「ようこそ先輩」というのを行っています。丸高卒業生を講師にお呼びして、1時間語っていただきます。生徒指導委員会は昨日もあったんですが、街頭指導で、ちゃんと自転車はルールを守って乗っているかとか、夏休みの夜の見回りもしています。まあ、どこの学校でも一緒かなと思います。（岩崎副会長）

丹南高等学校PTA会長

質問 母親委員会の「生徒と語る会」は年に何回くらいされているのか教えてください。それは生徒さんも参加されているのですか。親御さんはどうですか。自校の場合、以前はやっていましたが今は行っていません。母親委員会にあたる子育て委員会というなかで今後取り入れていけたらなと思いますのでお答えください。

回答 年1回です。母親委員会のその他の行事として食育の講演と実技があります。生徒はどの活動にも参加しています。親は自由参加で行っています。（岩崎副会長）

丹生高等学校PTA

質問 地域密着ということで本校とも似ていると思います。お祭りに参加されたりしているのですが、地域行政と学校とのつなぎ役というのはどうされているのですか。

回答 丸岡町の特徴だと思いますが、兄弟が多かったり、小・中・高とPTAの役員をしていたり、掛け持ちをしている方も少なくありません。また自分の後輩が中学校でPTAをやっている場合もあります。そうすると、何かいいことないかとか連携できないかとか縦のつながりが、歴史的に地域的にできやすい要件がそろっているという解釈があっているのかなと思います。（月城会長）

あと、市役所の方がPTAになっている方もいて、坂井市役所の方も、そういうことにはどんどん参加してと、推奨していると思います。（岩崎副会長）

家庭教育とPTA

～“たくみそば”から家庭の絆を～

福井県立武生工業高等学校PTA

1 本校の概要と特色

(1) 教育方針 民主主義教育を基本とし、敬愛と協和の精神を培い、人間完成に努め、健全な身体をもつ有為の工業人を育成する。

- (2) 校 訓
- 1 互いに敬愛する
 - 2 創造能力を伸展する
 - 3 勤労を愛好する
 - 4 健康を増進する

(3) 教育目標

昭和34年に創立された本校は、健全な心身を有し、地域を支える心ある技術者の育成を目標としています。

地域に開かれ、地域に支えられ、地域に貢献できる学校、ものづくりを通して生徒が主体的に学び、豊かな心を持った生徒を育成する学校、多様な進路希望に確実に対応し、生徒の夢を実現する学校を目指しています。

50余年の歴史の中で送り出された卒業生は、今や地元の産業の中心となって堅実な活躍ぶりを見せています。これからも本校では、互いに敬愛し、創造能力を伸展させ、勤労を尊びながら、校歌にも歌われている「新しきたくみの世界」を目指していきます。

(4) 教育内容

創立から数回の学科再編を経て、現在全校生徒約390名、学科の構成は、都市・建築、電気、工業化学、電子機械の4学科より成り、いずれも専門性を重視しながら、高校生として普通教科の力も大切にしています（都市・建築科は1年次より都市工学と建築の2コースに分かれます）。それぞれの学科では、基礎知識・技術の習得に重点を置き、さらに充実した設備と環境のもとで応用力を培っています。また、班ごとに分かれて行う少人数の実験・実習や、パソコンやCADの最新技術を多く取り入れた授業で、幅広い教育効果を上げています。就職後に必要な各種資格については、各科とも全力を挙げて取り組み、さらに夢と可能性の実現に向けてより高い資格に挑戦しています。進学希望者には2年次より進学補習を開始し、工業の専門性を生かした進路指導も行っています。

(5) 学校の歩み

昭和34年 福井県立武生工業高等学校創立、土木科を設置する。

昭和35年 土木科を土木建築科と改称。電気、工業化学科を新設、3学科となる。

昭和37年 土木建築科を土木科、建築科に分け、4学科となる。

平成 6年 土木科を都市工学科に改称。電子機械科を新設し、5学科となる。

平成 9年 都市工学科と建築科を統合、都市・建築科とし、都市工学コースと建築コースとする。

平成21年 創立50周年記念式典を行う。

2 学科紹介

都市・建築科 都市工学コース

市民が快適な生活のできる都市造りを目指し、時代のニーズにあった知識と技術を習得させとくに環境問題や情報技術に重点を置きながら、公共性の高い工事の計画・調査・設計・施工・管理ならびに行政などの幅の広い分野で活躍できる中堅技術者を育成します。また、在学中に測量士補、2級土木施工管理技術検定などの各種資格取得にも力を入れ合格率を高めると共に、大学進学等にも力を入れています。

都市・建築科 建築コース

建築の基礎的な理論と建築設計製図や建築実習等の実技に習熟して、建築の計画や設計建築工事の管理などの業務に従事する中堅技術者の育成を目標としています。近年は、授業で得た知識・技術を生かしたものづくりを通して、近隣の諸施設との交流を行うなど地域社会の発展に寄与できる意欲と能力を持つ人材の養成にも力を注いでいます。

電気科

電気および電子・情報に関する基礎的・基本的な知識や技術の習得に重点を置き現代社会における工業の意義や役割を理解させると共に、工業技術の諸問題を主体的合理的に解決し、心ある技術者として、地域社会の発展に貢献できる能力と実践的な態度を持った人材を育成します。

工業化学科

工業化学に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得すると共に、環境問題や高度通信情報化社会に対応できるよう情報技術にも重点をおいた、諸分野に対応できる中堅技術者を養成します。

電子機械科

機械と電子・電気・コンピュータに関して実験・実習と理論的な学習の連携をはかりながら学び、産業と自然との調和についてしっかりとした哲学を持てるようにします。そして、ものをつくり、廃棄物を処理し、自然を守り、後生の人類や人間以外の生物のことまで考えて、汗を流すことをいとわない人格を育てます。

3 PTAの組織と主な活動

本会では、各クラスから2名の評議委員を選出し、選出された評議委員、総勢約30名が実行委員会を構成します。各委員は総務、進路広報、健全育成の3つの専門委員会のうちのいずれかに所属します。役員会は会長(1名)・副会長(3名)・会計(2名)・監事(2名)・各委員会の正副委員長(6名)により構成されています。主な活動は、5月に開催するPTA総会、7月のPTA研修会、9月のそば打ち研修会、10月の学校祭での「たくみそば」の出店、年2回の実行委員会開催、入学式、卒業式等の学校行事への参加協力です。

平成26年度PTA関係行事計画

月	日	内 容	場 所
4月	7日(月)	入学式、PTA入会式	本校
	14日(月)	PTA役員選考会	本校
	21日(月)	PTA監査・第1回役員会	本校
5月	2日(金)	第1回PTA評議員会	本校
	10日(土)	PTA総会・各種委員会・スクールバス仮申込	本校
	16日(金)	県高P連理事会	生活学習館
6月	4日(水)	県高P連年次総会	AOSSA
	21日(土)	各高PTA会長会議	AOSSA
7月	3(木)～4(金)	北信越高P連研究大会	長野県
	17日(木)	保護者会・PTA新聞「左右」発行	本校
	18日(金)	PTA研修会	本校
8月	19日(火)	第2回PTA役員会	本校
	22(金)～23(土)	全国高P連研究大会	福井県
9月	4日(木)	第2回PTA評議員会	本校
	10(水)～26(金)	PTAたくみそば研修会	本校
	13日(土)	PTA指導者嶺北地区研修会	生活学習館
		総務・健全育成・進路広報各委員会	本校
	29日(月)	たくみそば準備	本校
	30日(火)	学校祭第1日目 文化祭	本校
10月	1日(水)	学校祭第2日目 文化祭「たくみそば」出店	本校
	2日(木)	学校祭第3日目 体育祭	本校
	下旬	スクールバス申込者説明会	本校
11月	下旬	スクールバス定期券渡し	本校
12月	1日(月)	スクールバス運行開始	本校
	19日(金)	第2学期保護者会	本校
1月	16日(金) 下旬	第3回PTA役員会 PTA担当者会議	本校
2月	5日(木)	第3回PTA評議員会	本校
	2月～3月	PTA各種委員会	本校
3月	3日(火)	第54回卒業式、PTA新聞「左右」発行 スクールバス運行終了	本校 本校
備考	月1回例会	補導理事の補導活動	

4 「たくみそば」について

学校祭の2日目にPTAによる「たくみそば」の出店を行っています。PTAとして、子供たちのために何かできることはないかと考え、平成11年度にスタートしました。名前の由来は、本校の校歌にも歌われている、匠（たくみ）の技を研鑽し身につけるという意味からとられたものです。本校独自の精神を表しその精神をPTAも持ち続けたいとの気持ちから名付けられました。平成26年度でこの取り組みも16回目を迎えます。



(1) 「たくみそば」研修会

当日の出店に備えて、講師を招いて、そば打ちの研修会を行っています。評議委員さんや協力していただける保護者、そして子供たちは営繕委員と希望者合わせて約50名が参加し、保護者3回、子供たちは2回の練習を重ねて腕を上げています。

研修会は平日の午後6時からと6時30分からの2班に分けて、2週間程度毎日行われます。仕事のやりくりをして、ほとんどの実行委員の方が参加されています。中には夫婦でそば打ちに来られる方もいて大変和やかで良い交流の機会となっています。



(2) 販売状況

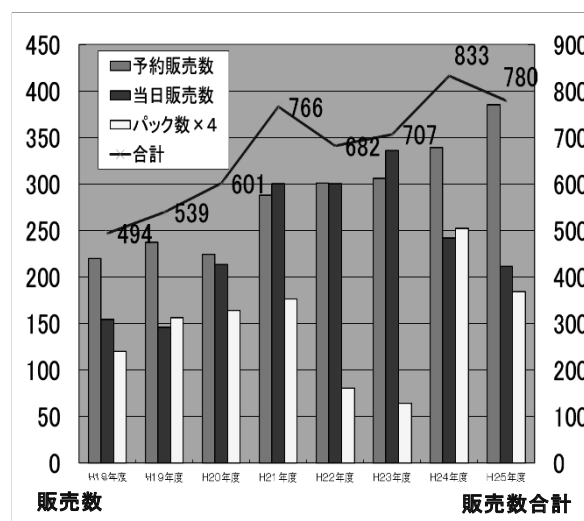
昨年度の販売状況は、予約販売385食、当日販売211食、パック販売184食、計780食になりました。

(3) 募金にも協力

平成23年度より、売上金の一部を近くの児童養護施設に寄付させていただきました。この活動は今後も続けていく予定です。

(4) 過去の販売実績

過去8年間の販売実績は右のグラフのとおりです。グラフが示すように、販売数は毎年増加しています。今後は、販売数800食を目指しています。



(5) そば打ち交流の効果

そば打ちの研修で、学校へ行く機会が増え、評議委員同士で気軽に話ができ、さらに先生方にも子供の悩みを相談できるようになります。又、学校のことを話題にして子供との会話も増えます。そして何よりも我が子の学校での様子を見ることができます。

(6) 他校との交流

越前市の特別支援学校に、学校祭で使うおろしそばの器の製作を依頼しています。一昨年に50枚、昨年も50枚を納品してもらいました。できた器は直径15cm、深さ約5cmで深い茶色や淡い青色など風合いに富んでいます。こちらからは、3年生の課題研究で製作した信号機や園芸ハウスを贈るなどの交流も続けています。

(7) 今後の課題

機材の充実を図ること、地域のそば打ちの愛好者を巻き込みながら、地域と共により一層の活性化をどう図るべきかなど、800食を目指すまでの課題はたくさんあります。

6 その他のPTA活動

たくみそばの他にもさまざまな活動をやっています。

(1) PTA新聞「左右」

進路広報委員会が会員の絆としての広報紙「左右(さゆう)」を年2回(7月と3月)発行しています。「左右」とは、学校や家庭の「左右(そう)」(ありさま)を伝える「左右(そう)」(しらせ)として深く保護者と先生が「左堤右掣(さていゆうけつ)(手を取り合うこと)する」という意味が込められています。7月発行の紙面は入学式とPTA関係の行事を紹介する写真やPTA会長と校長の挨拶、PTA役員名、教務部と進路指導部の記事、生徒指導部の記事、図書情報部の記事、保健部の記事と北信越大会出場クラブの体験談、PTA行事予定、1学期の学校行事を紹介する写真が掲載されています。3月発行の紙面は、学校祭を紹介する写真や子供の進路選択の体験談、進路状況報告、PTA各委員会の委員長の言葉、卒業生表彰者名一覧と部活動の記録、2・3学期のPTA及び学校の行事を紹介する写真が掲載されています。

(2) 街頭補導

健全育成委員会では、愛護センターからの年10回の補導割当に従い、青少年が多く集まりやすいゲームセンター・量販店・書店などを巡回し、「愛の一声」をかけるなどの補導活動に従事しています。また、祭礼、行事等特定地域での活動が必要と認められる場合は、愛護センターからの割当やコースにとらわれることなく、自主的な計画により地域補導活動に従事しています。

(3) 学校公開

以前より様々な研修会が行われてきましたが、昨年は「学校公開」の企画を立て、学校探検(実習設備・部活動見学)やコーヒー、ケーキを飲食しながら交流会を実施したところ、保護者49名、先生方10名が参加しました。保護者の方からは、「まる

で工場見学をしているみたい」との感想を頂き、先生方に色々な質問が出て、終始和やかな雰囲気で行われました。



7 終わりに

今回は、武生工業高校のPTA活動の一つである「たくみそば」を中心に発表させていただきました。今後も「食」を通して子供たちとのコミュニケーションをはかり、地域の方々との交流を通じて、武生工業高校を理解していただくよう活動していきたいと思っております。また、保護者と先生がお互い助け合う信頼関係をなお一層築けるよう努力していきたいと思っております。

【質疑応答と意見交換】 発表校 武生工業高校PTA

奥越明成高校PTA

質問 進学、就職者の割合はどれくらいですか？また、どの地域に就職するのですか？
男子生徒と女子生徒の割合はどれくらいですか？

回答 進学者は全体の約2割で、就職者は全体の約8割です。ほとんどが地元の丹南地区に就職します。地域的に製造関係の企業が多く、就職する生徒に大変有利になっています。

男子生徒と女子生徒の割合は全体の2%が女子で残り98%が男子です。女子生徒は都市・建築科と工業化学科に各学年に2～3名ずついます。

丹南高校PTA

質問 PTA活動の中で街頭補導というのがありますが、月に何回、年に何回ぐらい巡回されるのでしょうか？また、1回にPTAの方は何人で巡回されるのですか？

回答 街頭補導は愛護センターからの年10回の補導割当により、ゲームセンター・量販店・書店などを巡回します。だいたい月に1回ぐらいの割合です。1回に巡回する人数は2人です。2人とも健全育成委員会のメンバーの方々です。



福井県高等学校PTA指導者研修会

嶺南地区

平成26年9月20日(土)

福井県立三方青年の家

本校のPTA活動について

～家庭と学校が両輪となった活動を目指して～

福井県立敦賀工業高等学校PTA

はじめに

本校は今年度、創立から53年目を迎えました。昭和37年に嶺南唯一の工業高校として開校し、時代と共に何度かの学科再編を経て、現在も単独の工業高校として、地域を支える人材を育成しています。これまでに約9500名の卒業生を送り出し、かつての高度経済成長期の日本の企業を支えてきました。また多くの方は県内や地元企業を中心として活躍されています。平成23年には学校創立50周年記念事業を行い、また新たな半世紀に向けて再出発をしました。

1 本校の概要

(1) 特徴

校訓には、「活力」何事も全力でやり抜く。「自律」正しく判断し、行動する。「進化」夢に向かい挑戦し続ける。の三つを掲げています。『育てよう自分、伸ばそう技術』は本校の学校案内や、ポスターのキャッチフレーズとして定着し、地域に貢献する未来のエンジニアを育てています。

学校努力目標の中心には、「地域社会との連携を密にして、理解と協力を深める。」や「特色ある学校づくりを推進する。」があります。本校では、地元商工会議所や企業と連携して、希望する生徒が10日間の長期企業実習を行っています。また資格試験や課題研究、就職の模擬面接などでも、地元企業や同窓会、ライオンズクラブなどの協力をいただいています。

また、課題研究やまちづくり活動、出前授業などでは、ものづくりを通して地域との交流や貢献を行い、ものづくりの楽しさを学んでいます。

今年の2月には、地域に根差した教育活動や地域社会に貢献できる人材の育成が評価されて、文部科学省から「キャリア教育文部科学大臣表彰」をいただきました。これまでの実践が評価され、全国34校の高等学校の一つとして、本校が選ばれたことは大変名誉なことです。



(2) 学科

電子機械科

新しい社会に貢献できる技術者育成を目指しています。実際にいろいろな物を製作しな

がら、機械技術、電子技術、情報技術など幅広く学習します。

電気科

安定した、安全でクリーンなエネルギーの確保や、日本のものづくりを支える技術者の育成が大変重要となっています。電気科では、オームの法則から、発電・送電・配電・機器・電子・制御・通信といった応用まで幅広い分野を学習し、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

情報ケミカル科

情報化社会に対応できる幅広い基礎知識を身に付け、さらに情報およびケミカル(化学)の分野での専門的な技能を習得し、実社会に貢献できる工業技術者を目指しています。

1年次は共通、2年次・3年次には情報コースとケミカルコースに分かれて学習します。

建築システム科

安全・快適に生活できる建築や都市を創造する技術者、地域社会に貢献できる心ある技術者を育てます。図面から設計者の意図を読み取り、それを反映した空間を表現できるエンジニアを目指して、製図や建築一般に関する知識を習得し、CADなどのコンピュータ利用に関する知識・技能、さらにはデザインの感性の育成を目標としています。

(3) 進路状況

今年3月卒業生の進路状況は、進学14%、就職86%です。就職者の58%が県内に就職しています。就職先については、大手電力会社の求人が減りましたが、全体の求人数は前年度を上回り、就職内定率は100%でした。

(4) 部活動

今年3月の、全国選抜ボート競技大会で、ダブルスカルに3年の高田直生君と奥田紋吉君ペアが準優勝しました。また5月の朝日レガッタでは、同じくダブルスカルで同ペアが優勝しました。6月の全日本ジュニアシングルスカルでは、高田直生君が準優勝し、アンダー19の日本代表として、世界ジュニア選手権の出場を決めました。

8月にドイツで行われた世界ジュニア選手権では、本県の美方高校の武田君らとともに、4人乗りクオドプルに出場しました。体格の大きな外国選手との試合は、今後につながる良い経験になりました。9月に台湾で行われたアジアジュニア選手権では、シングルスカルに出場して、見事3位入賞を果たしました。

高校生ロボット競技大会県予選では、電気部が優勝し電子機械部が3位と活躍しました。ともに11月に宮城県で開催される全国大会に出場します。

高校生ものづくりコンテストにも積極的に参加しています。今年は機械科の旋盤加工部門、情報ケミカル科の化学分析部門、建築システム科の木材加工部門の3部門が北信越大会に出場しました。



2 本校のPTA組織

(1) 役職員構成

役員	会長	1名	(教職員を除く)
	副会長	4名	(校長、家庭部長を含む)
	会計監査委員	2名	(教職員を除く)
	顧問	若干名	(教職員を除く)
職員	書記	2名	(保護者・教職員各1名)
	会計	2名	(保護者・教職員各1名)

(2) 評議員構成と専門部会

評議員は役員会の推薦により、保護者の中から合計36名を選出する。また、評議員は下記のいずれかの専門部に所属する。

部 会	人員	業 務
総 務 部	6名	年間計画と行事調整 1. 教育懇談会等の実施 2. 進路指導への協力とその助成 3. 二州地区4校合同の交流会
健全育成部	12名	学習・生活に関する学校と地域との連携・啓発 1. 夏休み中の市内巡視 2. 通学時の交通安全指導
厚生部	7名	福利・厚生と会員の交流 1. 会員相互の親睦 2. 部活動の激励と援助 3. 奉仕作業の実施
広報部	6名	PTA新聞の発行と啓発 1. 広報誌の年2回発行
家庭部	5名	企画立案と各専門部会との連携と交流 1. 敦工祭での模擬店開催 2. 会員研修会の開催

(3) 活動の特徴

本校のPTAは、保護者と教職員が一体となって、子どもたちの心身の健全な発達を図るとともに、会員相互の交流を深める活動を行っています。よく、家庭と学校は車の両輪のようにたとえられますが、本校では、まさにそのような活動が実践されています。学校祭では、保護者が模擬店を出店し、名物のカツカレーを販売しています。



毎年500食作る大盛りのカツカレーは、生徒はもちろん先生方にも大好評です。また、秋の奉仕作業には、保護者と生徒、先生方合わせて200名以上が参加して校舎内外の清掃を行います。特に樹木の雪つき作業は、本校の風物詩として定着しています。

今後も一人でも多くの保護者の方に参加していただき、楽しんでもらえるような活動をめざしています。

3 P T A活動紹介

(1) 評議員会

評議員会は各学期に1回ずつ開催しています。5月にはP T A総会での議案の確認と、新役員の承認などを行います。夕方からは懇親会も行っています。9月の評議員会は、2学期の行事協力依頼と交流を目的に、市内のお店で昼食会を行っています。今年で3年目ですが、お母さん方にとっても好評です。



(2) P T A総会

本校のP T A総会は土曜日に開催し、1・2年生の授業参観や3年生の進路保護者会、地元企業説明会と合わせて開催しています。今年は保健委員会主催で生徒による「僕の気持ち・私の気持ち」と題したプレゼンで、素直な今の気持ちを保護者に語りかけました。

(3) 専門部活動

①二州地区合同レクレーション

今年度は本校が幹事校のため、会場準備から運営までを担当しました。以前は敦賀市内の3高校で行っていましたが、昨年からは二州地区の4校に広がりました。各高校から2チームを編成し、予選リーグ戦と決勝トーナメント戦により勝敗を決しました。交流が目的なのですが、試合が開始されると真剣勝負になります。その後の懇親会では、4校の交流が十分図られました。

②交通安全街頭指導

登校時の交通安全街頭指導は、春に3日間と秋に1日行います。学校近くの交差点で保護者と教員が、朝の声掛けをしながら行います。

③部活動激励

夏の大会直前には、全ての運動部と文化部の激励を行います。2班に分かれてP T A役員より激励とスポーツドリンクの配布を行っています。

④P T A模擬店

敦工祭の2日目は恒例のP T A模擬店です。午前中の合唱コンクールの鑑賞と合わせて、お母さん方を中心に40名近くの保護者の方が手伝いに来られました。会長や副会長のお父さん方もエプロン姿で調理に加わり、500杯のカレーを販売し大変好評でした。

⑤親睦旅行

10月にはバスの日帰り親睦旅行を行います。ものづくり等の体験やホテルのランチバイキングに人気があり、お母さん方を中心に多くの参加者があります。バスの中ではゲームや学校祭のビデオ鑑賞で大変盛り上がり、保護者同士や教員との親睦がはかられています。今年は開通したばかりの、舞鶴若狭自動車道を利用して神戸方面に計画されています。

⑥奉仕作業

本校のPTA活動の特徴の一つに奉仕作業があります。保護者と生徒、教員合わせて200名以上が参加し、校舎内外の清掃を行います。運動部や文化部は部活単位で、グラウンドや校舎周辺の側溝とトイレなどを保護者と共に行います。また専門家の指導を下に樹木の雪つり作業を行い冬に備えます。

⑦進路懇談会

2年生の保護者を対象に進路に関する講演会を開催しています。進学希望の生徒には学校ごとに部屋を設け、本人と保護者に対して説明会を行います。毎年ほとんどの保護者が出席します。

⑧広報紙発行

7月と3月の年2回、A4で8ページのカラー版の広報紙「敦工」を発行しています。一人でも多くの保護者の方に読んでもらえるように、毎回工夫を凝らして編集しています。

(4) PTA全国大会

今年の夏は本県にて、全国高等学校PTA連合会大会福井大会が開催されました。本校は全体会式典部会の担当で、全体会サブ会場の敦賀市民文化センターのスタッフとして協力しました。本校の福谷会長は嶺南会場の責任者として、全体のとりまとめや調整をしていただきました。奥村実行委員さんは全体会サブ会場の式典部会責任者として、嶺南各校のとりまとめをしていただきました。

開会式アトラクションでは、本校吹奏楽部の演奏に合わせて、敦賀高校書道部と若狭高校書道部のコラボによる書道パフォーマンスを披露しました。総勢140名によるステージは迫力があり、参加者の方々にも大変好評でした。部活の忙しい中で準備や練習を重ねてもらい、各高校の顧問の先生方や生徒の皆さんに感謝しています。

4 終わりに

ここまで本校のPTA活動について紹介してきましたが、本校の特徴と今後の課題についてまとめてみたいと思います。

本校の評議員選出は選挙ではなく、役員会の推薦により選出しています。小学校や中学校での役員経験者や知り合いが集まりやすく、行事での声掛けや協力が得られ、多くの方が参加してくれます。また保護者



だけでなく、生徒や教員も一緒になって取り組む事業が確立しています。

しかし一方では課題もあります。役員のつながりが強い反面で、次の役員選出が難しいこともあります。また評議員も地区や学年・クラスに偏りが出やすくなります。PTA活動に熱心な家庭ばかりではありません。一人でも多くの多くの保護者の方に参加してもらえることが大切です。

学校評価アンケート結果では、9割以上の保護者や教員がPTA活動を高く評価しています。今後も生徒達の教育環境や成長をサポートする事業を、継続して行っていききたいと思います。

【質疑応答と意見交換】 発表校 敦賀工業高等学校PTA

美方高等学校PTA

質問 就職する生徒の技術向上・資格取得等で、先生方が授業以外の時間(早朝、放課後)で熱心に指導されていてすごいと感じた。就職率100%との報告だが、大手電力会社が現在稼働していない時期で、世間では就職率は減っていると聞かすが、就職率100%を維持しているのは他のどういう業種がのびているのか？また今後の傾向は？

回答 全ての電力会社の求人がないわけではなく、一社は確かに求人が無くなった。本体ではなく関連会社の就職はまだまだある。全体としての就職先はある。(教諭)

回答 TV・新聞等で関西電力が高校生の求人を見送る報道が出されたが、事前に中止の連絡があった為あわてることなく対処できた。初めから関電を希望していた生徒については、他の電力会社に希望変更した。他の求人は心配なく充分来ていたので生徒は選ぶことができた。(校長)

美方高等学校PTA

意見 全国PTA「福井」大会お疲れさまでした。スライドでアトラクションの様子をみることでよかった。

質問 文化祭でカレーライスの模擬店を行っているとのことだが、販売価格、カレーライス作りのボランティア人数、どのようなカレー皿の容器を使用しているか？採算は？

回答 カレーの販売金額は、カツカレー200円・カレー150円
協力してくれた人数(保護者+先生) 約30数名
カレー皿は、エコトレイを使用
プラスチックの深皿にビニールシートを一枚貼ってあり食べ終わったらシートをはがして分別して捨てる。皿を洗わなくても良い。(実際に皿を見てもらう。)
おいしいものを安く提供しているため、約8万円の赤字になる。(PTA役員)

*美方高校、小浜水産高校のPTAの方も、体育祭文化祭等で模擬店を行っているため参考にしたいとの事でした。

『みんなのPTA』

平成26年度 福井県PTA指導者研修会報告書

発 刊 平成27年2月

編 集 **福井県生涯学習センター**
〒918-8135 福井市下六条町14-1

印 刷 エフ・ケー・マイクロ（株）
〒910-0859 福井市日之出2丁目5-5



健康長寿の福井



平成27年2月発行(55020)